

事業報告書

独立行政法人日本貿易保険 2009年度事業報告書

1. 国民の皆様へ

貿易保険は、企業の貿易・投資といった対外取引について、国際政治・経済の特性から不可避的に生じるリスクを、国の信用力と交渉力に基づく中長期の収支相償メカニズムで救済する保険です。日本企業の国際競争力の確保や、日本経済の発展に必要な資源の確保の上で必要不可欠な制度となっております。

貿易保険は、大型の非常事故等により一度に巨額の保険金支払いを迫られる可能性等に備え、諸外国において国の事業として行われています。我が国の貿易保険の事業運営は、お客様からの保険料収入により賄われておりますが、我が国企業の国際競争力を確保する上でも、無限の信用力を有する国の関与は欠かせません。また、保険金支払後の債権回収は、当該リスクの性格上、主にパリクラブ(主要債権国会議)等の政府間交渉の場を通じて、長期間にわたって行われるため、制度の維持には、国の外交力と交渉力が不可欠です。

独立行政法人日本貿易保険(Nippon Export and Investment Insurance 'NEXI')は、約50年間にわたり政府(経済産業省)が実施してきた貿易保険事業を引き継ぎ、2001年4月の設立以来、お客様中心主義に立ちサービスの向上と業務の効率化に努めてまいりました。2009年度は、金融危機への機動的な対応として、海外日系企業の運転資金支援など、企業のニーズに応える保険の引受を数多く行ってまいりました。また、貿易保険が付保された輸出代金債権の流動化促進による中小企業の資金繰り支援など、政策的要請に応える商品・サービスの改善にも積極的に取り組んでまいりました。

2009年度のNEXIの保険引受実績は、前年度比15.7%減の8.2兆円となりました。これは主に、金融危機等の影響による世界経済減退を背景とした輸出量の減少に伴い、貿易一般保険の引受が大きく減少したことによるものです。一方で、海外日系企業における運転資金支援のニーズが大きく高まったことや、大型資源プロジェクトの引受により、海外事業資金貸付保険の引受は前年度比63.2%増の1.6兆円に達し、NEXI発足以来の最高額となりました。その結果、正味保険料収入は、貿易一般保険の減少分を海外事業資金貸付保険が補う格好で、前年度比7.3%増の108億円となりました。他方、保険金支払に関しては、信用事故が増加したものの、キューバ向け非常事故による支払が大幅に減少したため、全体として前年度比で4割近く減少しました。また、事業費・一般管理費の削減に努めた結果、経常利益57億円を計上しました。特別損益は、NEXI創設時のイラク向け被出資債権(保険代位債権)の評価額が上昇したこと等により、昨年度の赤字から、110億円の黒字に転じました。以上より、当期利益は167億円となりました。

世界経済のグローバル化がますます進展する中で、世界的に、国家が企業を後押しして官民一体となり国際競争を勝ち抜こうとする動きが強まっています。このような状況の下、我が国の輸出信用機関(ECA)であるNEXIへの期待は一層高まっています。N

EXIは、今後とも、国の政策実施機関として、多様化するビジネスニーズにマッチした、質の高い貿易保険サービスを効率的に提供していくことに全力を尽くしてまいります。

2. 基本情報

(1) 法人の概要

法人の目的

独立行政法人日本貿易保険は、対外取引において生ずる通常の保険によって救済することができない危険を保険する事業を効率的かつ効果的に実施することを目的としております。(貿易保険法第1条)

業務内容

当法人は、貿易保険法第1条の目的を達成するため以下の業務を行います。

- 一． 貿易保険法第3章の規定による貿易保険の事業を行うこと。
- 二． 上記業務に附帯する業務を行うこと。
- 三． 貿易保険によりてん補される損失と同種の損失についての保険(再保険を含む。)の事業を行う国際機関、外国政府等又は外国法人を相手方として、これらの者が負う保険責任につき再保険を引き受けること。
- 四． 貿易保険法第4章の規定による政府を相手方とする再保険のほか、貿易保険によりてん補される損失と同種の損失についての保険(再保険を含む。)の事業を行う国際機関、外国政府等又は外国法人を相手方として、貿易保険法により日本貿易保険が負う保険責任につき再保険を行うこと。

沿革

- 1999年 7月 独立行政法人通則法成立
- 1999年12月 貿易保険法等の一部を改正する法律成立
- 2001年 4月 独立行政法人日本貿易保険 設立
(参考)
- 1950年 3月 輸出信用保険法(現 貿易保険法)成立
以降、貿易保険事業は2001年3月末まで経済産業省にて運営。

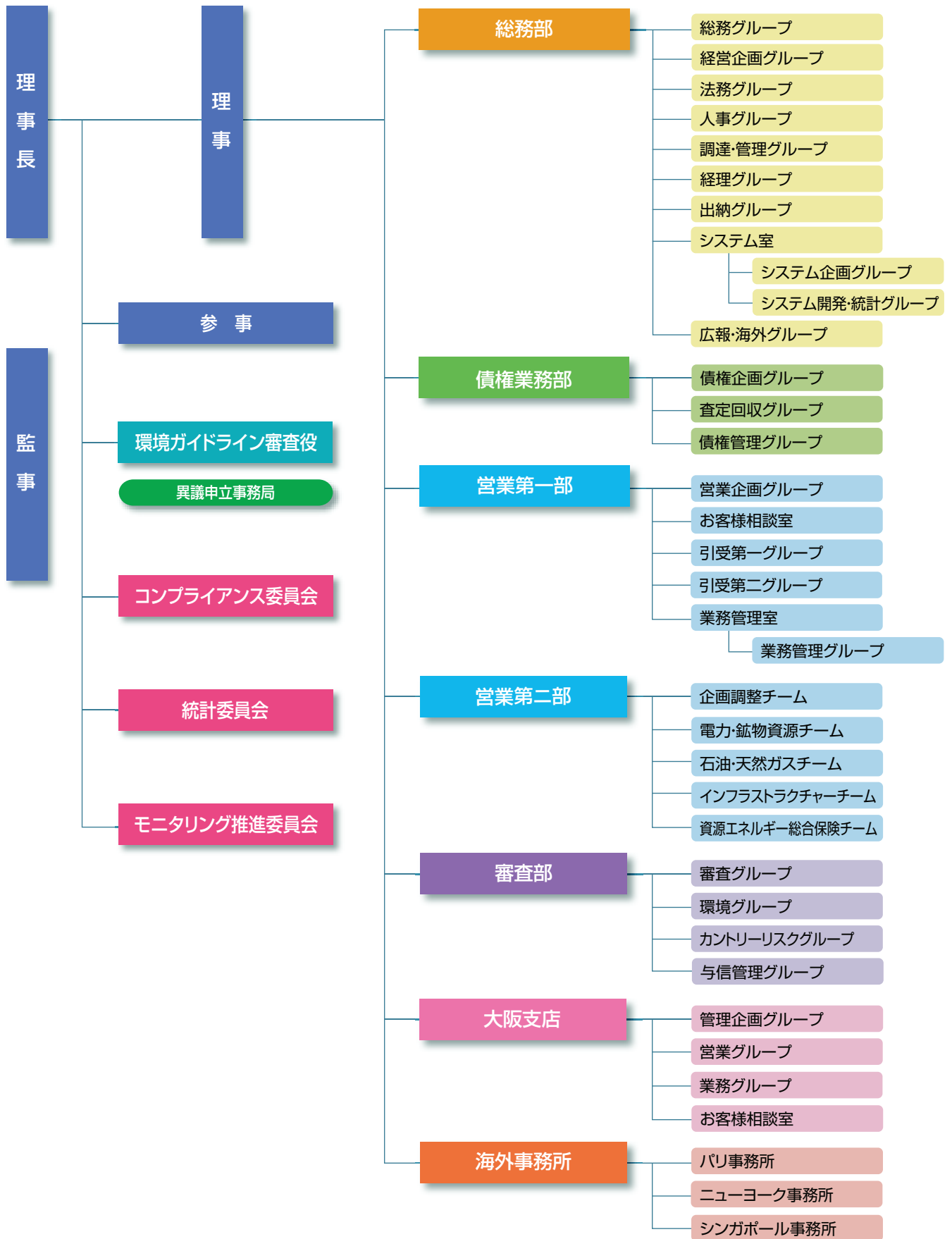
設立根拠法

- 独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)
- 貿易保険法(昭和25年法律第67号)

主務大臣(主務省所管課等)

- 経済産業大臣(経済産業省貿易経済協力局貿易保険課)

組織図 (2010年3月末現在)



(2) 本社・支社等の住所

本店 東京都千代田区西神田3 - 8 - 1 千代田ファーストビル東館3階
大阪支店 大阪府大阪府中央区北浜3 - 1 - 22 あいおい損保淀屋橋ビル8階

(3) 資本金の状況

(単位:百万円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	104,352	-	-	104,352
資本金合計	104,352	-	-	104,352

(4) 役員の状況

役職	氏名 (生年月日)	略歴
理事長	鈴木 隆史 (1949年6月21日生)	1973年4月 通商産業省入省 2002年7月 地域経済産業審議官 2003年7月 貿易経済協力局長 2004年6月 大臣官房長 2006年7月 経済産業政策局長 2008年7月 特許庁長官 2009年7月 特許庁顧問 2009年8月 独立行政法人日本貿易保険理事長
理事	大林 直樹 (1949年3月9日生)	1971年7月 東京海上火災保険株式会社入社 1996年6月 公務開発部長 1997年7月 公務第二部長 2002年4月 独立行政法人日本貿易保険総務部 審議役 2005年4月 独立行政法人日本貿易保険理事
理事	加藤 文彦 (1953年2月14日生)	1976年4月 通商産業省入省 1991年5月 JETRO・パリセンター(貿易保険部) 所長 1995年6月 資源エネルギー庁石油部流通課長 1997年7月 貿易局貿易保険課長 2004年7月 内閣府大臣官房審議官 2006年7月 独立行政法人日本貿易保険 参事 2006年10月 中小企業庁次長 2007年7月 独立行政法人日本貿易保険 理事

監事 (常勤)	西川 茂樹 (1947年11月1日生)	1970年4月 1995年7月 2001年6月 2005年4月 2006年9月 2007年4月	安田火災海上保険株式会社入社 社長室長 常務取締役 株式会社損害保険ジャパン 代表取締役嘱副社長執行役員 財団法人貿易保険機構参事 独立行政法人日本貿易保険 監事
監事 (非常勤)	今井 敬 (1929年12月23日生)	1952年4月 1970年3月 1981年6月 1993年6月 1998年4月 1998年5月 2001年4月 2002年5月 2003年6月 2008年6月	富士製鐵(株)入社 新日本製鐵(株)発足 本社燃料金属 部副部長 取締役 代表取締役社長 代表取締役会長 (社)経済団体連合会会長 独立行政法人日本貿易保険監事 (非常勤) (社)日本経済団体連合会名誉会長 新日本製鐵(株)相談役名誉会長 新日本製鐵(株)名誉会長

(5) 常勤職員の状況

常勤職員は平成22年1月1日において153人(前期末比7人増加、5%増)であり、平均年齢は41.9歳(前年1月1日41.9歳)となっています。このうち、国等からの出向者は47人、民間等からの出向者は11人です。

3. 簡潔に要約された財務諸表

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現金及び預金	9,373	支払備金	1,124
有価証券	261,301	責任準備金	17,108
保険代位債権等	238,526	再保険借	11,859
未収収益	1,206	預り金	35
未収保険料	4,808	前受保険料	2,436
再保険貸	607	賞与引当金	127
固定資産	1,852	退職手当引当金	241
その他	1,882	その他	661
貸倒引当金	203,872	負債合計	33,591
		(純資産の部)	
		資本金	104,352
		政府出資金	104,352
		資本剰余金	140,658
		利益剰余金	37,082
		純資産合計	282,092
資産合計	315,683	負債及び純資産合計	315,683

損益計算書

(単位:百万円)

	科目	金額
経常損益	経常収益 (A)	17,286
	保険引受収益	12,504
	資産運用収益	4,409
	為替差益	198
	その他	175
	経常費用 (B)	11,562
	保険引受費用	4,431
	事業費及び一般管理費	7,116
	人件費(注)	1,681
	減価償却費等(ソフトウェア償却を含む)	1,870
	その他	3,565
その他	15	
	経常利益 (C=A-B)	5,724
損特別益別	特別利益(被出資債権利息収入等) (D)	11,580
	特別損失(被出資債権評価損(貸倒引当金繰入額)等) (E)	571
	当期総利益 (C+D-E)	16,733

(注) 給与、賞与、法定福利費、賞与引当金繰入及び退職手当引当金繰入の合算額を表示

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	金額
業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	4,796
保険料収入	12,126
保険金の支払	10
回収金による収入	8,323
人件費	1,603
その他	2,586
投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	39,798
財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	3
資金に係る換算差額(D)	186
資金増加額(又は減少額) (E=A+B+C+D)	34,819
資金期首残高(F)	44,192
資金期末残高(G=F+E)	9,373

行政サービス実施コスト計算書

(単位:百万円)

科目	金額
業務費用	16,720
損益計算書上の費用	12,133
(控除)自己収入等	28,853
(その他の行政サービス実施コスト)	
損益外減価償却相当額	-
損益外減損損失相当額	-
引当外賞与見積額	-
引当外退職手当増加見積額	45
機会費用	1,460
(控除)法人税等及び国庫納付額	-
行政サービス実施コスト	15,215

財務諸表の科目

貸借対照表

財務諸表 注記___.固有の表示科目の内容をご参照下さい。

損益計算書

財務諸表 注記___.固有の表示科目の内容をご参照下さい。

キャッシュ・フロー計算書

業務活動による キャッシュ・フロー	貿易保険事業の通常業務実施に係る資金の状態を表し、サービスの提供等による支出、人件費支出等が該当
投資活動による キャッシュ・フロー	将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表し、固定資産や有価証券の取得・売却等による収入・支出が該当
財務活動による キャッシュ・フロー	ファイナンス・リースに係る支払が該当
資金に係る換算差額	外貨建資金に係る為替差額

行政サービス実施コスト計算書

業務費用	日本貿易保険が実施する行政サービスのコストのうち、独立行政法人の損益計算書に計上される費用
損益外減価償却相当額	償却資産のうち、その減価に対応すべき収益の獲得が予定されないものとして特定された資産の減価償却費相当額(該当する資産なし)
損益外減損損失相当額	日本貿易保険が中期計画等で想定した業務を行ったにもかかわらず生じた減損損失相当額(該当なし)
引当外賞与見積額	運営費交付金による賞与引当金見積額(該当なし)
引当外退職手当増加見積額	政府からの出向職員の退職手当増加見積額
機会費用	国有財産の無償使用及び政府出資等の機会費用の見積額

4. 財務情報

(1) 財務諸表の概況

財務諸表(損益計算書、貸借対照表及びキャッシュ・フロー計算書)の主なデータについて概況をご説明します。

(i) 2009年度決算の概況

(経常収益)

2009年度の経常収益は、17,286百万円を計上し、前年度比3,980百万円増(29.9%増)となりました。これは、支払備金戻入の発生等により保険引受収益が前年度比2,453百万円増(24.4%増)、国債等による資産運用収益が同1,256百万円増(39.8%増)となったこと等によります。

(経常費用)

2009年度の経常費用は、11,561百万円を計上し、前年度比153百万円増(1.3%増)となりました。これは、正味支払保険金は減少したものの責任準備金繰入の増加等により保険引受費用が前年同期比657百万円増(17.4%増)、事業費及び一般管理費は前年度比428百万円減(5.6%減)となったこと等によります。

(経常利益)

2009年度は、経常収益17,286百万円から経常費用11,561百万円を差し引いた5,724百万円の経常利益を計上いたしました。

(特別利益/損失)

2009年度の特別利益は、被出資債権に関する利息収入及び貸倒引当金戻入により11,580百万円を計上し、前年度比6,509百万円増(128.4%増)となりました。また、特別損失は、被出資債権に関する為替差損等により571百万円を計上し、前年度比7,860百万円減(93.2%減)となりました。これは、前年度は貸倒引当金繰入額7,420百万円を特別損失として計上したことに対して、2009年度は被出資債権(保険代位債権等)の評価額が上昇したことにより、貸倒引当金戻入額6,806百万円を特別利益として計上したこと等によります。

(当期総利益)

以上の経常利益、特別利益及び特別損失から、2009年度は16,733百万円の当期総利益を計上いたしました。

(資産の部)

2009年度末現在の資産合計は、315,683百万円を計上し、前年度比9,980百万円増(3.3%増)となりました。これは、被出資債権(保険代位債権等)の評価額が上昇したこと等による前年度比4,917百万円増(16.5%増)、有価証券が同38,692百万円増(17.4%増)、現金及び預金が前年度比34,819百万円減(78.8%減)となったこと等によります。

(負債の部)

2009年度末現在の負債合計は、33,591百万円を計上し、前年度比6,754百万円減(16.7%減)となりました。これは、支払備金が前年度比1,713百万円減(60.4%減)、責任準備金が同3,012百万円増(21.4%増)、再保険借が同3,977百万円増(50.5%増)、預り金が同11,847百万円減(99.7%減)となったこと等によります。

(純資産の部)

2009年度末現在の純資産合計は、282,092百万円を計上し、前年度比16,733百万円増(6.3%増)となりました。これは、当期総利益16,733百万円の計上等によります。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

2009年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、4,796百万円を計上し、前年度比10,693百万円減(69.0%減)となりました。これは、2008年度末に入金された国代位債権の回収に係る預り金を2009年度に支出したこと等により回収金の収入が前年度比13,583百万円減少したこと等によります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

2009年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、39,798百万円を計上し前年度の収入から支出に転じました。これは、有価証券の取得等により関連収支が28,589百万円支出増となったこと等によります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

2009年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、支出額3百万円を計上しました。

(ii) 2005年度から2008年度までの決算の概況

(2005年度)

保険料収入の増収、資産運用収益の増収等による経常収益の増加や、保険代位債権等に係るロシアの期限前償還等による順調な回収、債権評価の上昇等により特別利益が増加した結果、56,542百万円の利益を計上いたしました。

(2006年度)

資産運用収益の増収等により経常収益は増加しましたが、保険代位債権等のロシア、ナイジェリア、ブラジル等の債務完済、ガイアナ、ホンジュラス等の債務免除等により特別利益が減少した結果、24,392百万円の利益を計上いたしました。

(2007年度)

イラク債権等被出資財産(保険代位債権等)の評価による貸倒引当金の積み増し等による総額86,847百万円の特別損失を計上した結果、83,709百万円の損失を計上いたしました。

(2008年度)

国際金融資本市場の動揺、世界規模での急速な景気減速により、被出資債権(保険代位債権等)の評価損及び信用危険事故の増加等による支払備金の繰入が発生いたしました。また、キューバの非常事故に係る保険支払等により、1,461百万円の損失を計上いたしました。

表 主要な財務データの経年比較

(単位:百万円)

区分	前中期計画期間				当中期計画期間
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
経常収益	11,585	12,520	12,706	13,306	17,286
経常費用	7,544	7,081	11,433	11,408	11,562
経常利益(損失)	4,041	5,439	1,273	1,899	5,724
特別利益	53,879	19,412	1,866	5,071	11,580
特別損失	1,378	459	86,847	8,431	571
当期総利益(総損失)	56,542	24,392	83,709	1,461	16,733
資産	398,588	377,995	302,164	305,703	315,683
負債	72,458	27,473	35,350	40,345	33,591
純資産	326,131	350,522	266,814	265,359	282,092
うち利益剰余金(積立金)	81,127	105,518	21,810	20,349	37,082
業務活動によるキャッシュ・フロー	60,477	70,633	28,939	15,489	4,796
投資活動によるキャッシュ・フロー	19,470	93,057	24,089	3,731	39,798
財務活動によるキャッシュ・フロー	24,881	3	2	3	3
資金期末残高	42,795	20,368	25,215	44,192	9,373

セグメント事業損益の経年比較・分析(内容・増減理由)

該当なし

セグメント総資産の経年比較・分析(内容・増減理由)

該当なし

目的積立金の申請、取崩内容等

該当なし

行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析(内容・増減理由)

2009年度の行政サービス実施コストは、前年度2,940百万円から15,215百万円に減少いたしました。これは、前期の損失が当年度は利益に転じたことによります。

表4 行政サービス実施コストの経年比較

(単位:百万円)

区分	前中期計画期間				当中期計画期間
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
業務費用	56,527	24,377	83,723	1,476	16,720
うち損益計算書上の費用	8,922	7,540	98,280	19,838	12,133
うち自己収入	65,449	31,917	14,557	18,363	28,853
損益外減価償却累計額	-	-	-	-	-
損益外減損損失相当額	-	-	-	-	-
引当外賞与見積額	-	-	-	-	-
引当外退職給付増加見積額	63	80	57	52	45
機会費用	1,874	1,745	1,355	1,412	1,460
(控除)法人税等及び国庫納付金	24,585	-	-	-	-
行政サービス実施コスト	79,175	22,552	85,136	2,940	15,215

(2) 施設等投資の状況(重要なもの)

該当なし

(3) 予算・決算の状況

(単位:百万円)

区分	前中期計画期間								当中期計画期間		
	2005年度		2006年度		2007年度		2008年度		2009年度		差額理由
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	
収入	75,481	124,833	78,151	156,680	65,386	90,334	69,653	131,420	126,130	118,905	決算報告書をご参照下さい。
業務収入	10,603	10,779	10,883	11,892	11,059	12,690	11,149	13,278	14,022	15,210	
被出資債権からの回収金	16,792	65,968	16,973	94,494	13,046	11,374	12,182	3,865	7,916	3,320	
有価証券の償還	-	-	7,500	7,500	7,500	32,490	7,500	75,456	60,000	56,182	
短期借入金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
前年度繰越金	48,086	48,086	42,795	42,795	33,781	33,781	38,822	38,822	44,192	44,192	
支出	75,481	124,833	78,151	156,680	65,386	90,334	69,653	131,420	126,130	118,905	
業務支出	29,944	29,246	5,745	5,763	6,247	6,234	6,842	7,196	17,343	6,308	
投資支出	4,530	3,066	715	6,056	615	2,756	515	51	1,770	1,454	
有価証券の取得	15,000	38,822	15,000	86,494	15,000	52,898	15,000	85,303	60,000	94,618	
短期借入金返済	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他の支出	350	297	2	11	2	2	2	94	2	3	
翌年度繰越金	25,657	42,795	56,689	33,781	43,522	25,215	47,294	44,192	47,015	9,373	
予算差異	-	10,608	-	24,577	-	3,228	-	5,416	-	7,148	

(4) 経費削減及び効率化目標との関係

当法人においては、当中期目標期間の業務費を、第二期中期目標期間において削減を達成した水準以下とすることを目標としています。また、一般管理費については、当中期目標期間中、2008年度の一般管理費相当額を基準にして、毎年度1%以上の削減を行うことを目標としています。この目標を達成するため、調達方法の見直しや、システム保守費用削減等の措置を講じています。

(単位:百万円)

区分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間	
	金額	比率	2009年度	
			金額	比率
業務費	4,215	100%	4,166	98.8%
一般管理費	578	100%	563	97.3%

(注1) 第四期システム開発関連経費、組織形態移行に伴う経費等の特殊要因経費及び中期目標の実現のために新規に追加・拡充される経費は、上記の効率化指標となる業務費及び一般管理費の算出からは除いています。

(注2) 一般管理費とは、役員及び総務部のシステム部門を除く一般管理部門の人件費・賃借料・業務委託費・外国旅費など管理業務に係る経費です。

(注3) 前中期目標期間終了年度の金額(基準値)は、(注1)及び(注2)に則って算出した、2008年度の実績(業務費)及び平成20年度の見込み(一般管理費)です。

5. 事業の説明

(1) 財源構造

当法人は、貿易保険事業の実施による、保険料収入及び保険金の回収金収入を財源として運営しております。また、被出資財産(保険代位債権等)の回収金については、これを国債等により運用し、利息収入を得ております。

なお、当法人では、上記の事業収入等により運営しており、交付金・補助金は受けておりません。

(2) 財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

統計データの作成方針について

(i) 短期・中長期の基準に係るBUルールへの適用

統計データの作成及び表示方法につきましては、以下のBUルール(BU:国際輸出信用保険機構)の区分に基づいております。

短期 : 1年以内

中長期: 1年超(資本財は全て中長期として区分)

(ii) 引受実績の作成方針

引受実績につきましては、保険契約締結日の為替レートを適用し作成しております。

(iii) 責任残高の作成方針

責任残高につきましては、保険契約締結日の為替レートを適用し、外貨建対応の特約付保険契約については、同特約の保険金額を用い作成しております。

貿易保険事業の概況

(i) 引受状況

引受実績は、再保険を含めた総額が前年度比 15.7%減の 8,199,062 百万円、当法人保有分が前年度比 16.6%減の 802,625 百万円となりました。保険種別では、金融危機等の影響による世界経済減退を背景とした輸出量の減少に伴い、貿易一般保険が前年度比 25.3%減の 6,231,455 百万円となった一方で、海外日系企業に係る運転資金支援のニーズが大きく高まったことや大型資源案件の引受を要因として、海外事業資金貸付保険が前年度比 63.2%増の 1,606,754 百万円となりました。

2009年度保険種別引受状況

(単位:百万円)

	引受実績						収入保険料					
	元受・受再ベース			うち当法人保有分			元受・受再収入保険料			正味収入保険料		
		構成比	対前期増減率		構成比	対前期増減率		構成比	対前期増減率		構成比	対前期増減率
貿易一般保険	6,231,455	76.0	25.3	622,293	77.5	25.3	13,596	33.8	23.1	3,752	34.8	22.1
責任期間1年以内	2,747,597	33.5	25.3	274,760	34.2	25.3	3,866	9.6	19.2	1,071	9.9	18.3
責任期間1年超	3,483,858	42.5	25.3	347,533	43.3	25.3	9,730	24.2	24.5	2,680	24.9	23.5
貿易代金貸付保険	91,382	1.1	121.1	9,138	1.1	121.1	1,155	2.9	20.8	325	3.0	18.5
輸出手形保険	19,986	0.2	22.8	1,999	0.2	22.8	184	0.5	16.8	51	0.5	15.9
輸出保証保険	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-
前払輸入保険	107	0.0	68.9	11	0.0	68.9	1	0.0	81.5	0	0.0	81.3
海外投資保険	213,193	2.6	24.3	19,783	2.5	4.7	2,956	7.4	10.8	724	6.7	16.2
海外事業資金貸付保険	1,606,754	19.6	63.2	145,783	18.2	51.0	21,425	53.3	46.8	5,686	52.7	48.1
限度額設定型貿易保険	9,653	0.1	62.8	965	0.1	62.8	283	0.7	44.4	78	0.7	46.1
中小企業輸出代金保険	646	0.0	45.6	65	0.0	45.6	6	0.0	30.1	2	0.0	31.6
再保険	25,885	0.3	37.7	2,588	0.3	37.7	597	1.5	37.3	166	1.5	36.4
アジア再保険	2,167	0.0	52.2	217	0.0	52.2	32	0.1	19.3	9	0.1	17.8
ワinstopショップ	23,718	0.3	40.9	2,372	0.3	40.9	565	1.4	38.1	157	1.5	37.3
合計	8,199,062	100.0	15.7	802,625	100.0	16.6	40,203	100.0	6.4	10,784	100.0	7.3

(注) 当法人保有分:当法人が責任を負っている金額 元受、受再ベースの数字から出再分を差し引いたもの。

また、収入保険料は前年度比 6.4%増の 40,203 百万円、正味収入保険料は、前年度比 7.3%増の 10,784 百万円となりました。保険種別でも、引受実績同様に、貿易一般保険の保険料収入が減少した一方で、海外事業資金貸付保険の保険料収入が増加しました。

引受実績を地域別にみると、受再を含む総収入ベースで、アジア向けが 3,604,106 百万円と最も大きく全体の 41.3%を占め、次に中米向けが 1,029,527 百万円、ヨーロッパ向けが 987,617 百万円となりました。

2009年度地域別引受状況

(単位:百万円)

	引受実績						収入保険料					
	元受・受再ベース			うち当法人保有分			元受・受再収入保険料			正味収入保険料		
		構成比	対前期増減率		構成比	対前期増減率		構成比	対前期増減率		構成比	対前期増減率
		%	%		%	%		%	%		%	%
アジア	3,604,106	41.3	18.8	359,960	42.1	18.5	9,073	22.6	14.8	2,439	22.6	12.8
中東	793,380	9.1	35.0	79,326	9.3	34.7	5,017	12.5	20.4	1,346	12.5	20.1
ヨーロッパ	987,617	11.3	23.1	83,869	9.8	34.7	7,784	19.4	192.7	2,008	18.6	186.6
北米	842,520	9.7	36.5	83,468	9.8	36.6	4,889	12.2	108.7	1,354	12.6	111.0
中米	1,029,527	11.8	10.3	102,953	12.1	10.3	1,191	3.0	67.0	311	2.9	67.9
南米	363,382	4.2	57.0	36,338	4.3	53.1	3,178	7.9	65.8	819	7.6	66.8
アフリカ	526,435	6.0	28.8	51,508	6.0	30.3	1,454	3.6	36.2	396	3.7	35.7
オセアニア	463,329	5.3	84.4	46,333	5.4	84.4	7,369	18.3	1,551.3	2,041	18.9	1,571.9
国際機関	106,123	1.2	82.9	10,593	1.2	84.7	249	0.6	26.9	69	0.6	28.7

(注1) 国別計上の方法: 船前...仕向国 船後...支払国 但し保証が付されている場合は保証国・保証国際機関

(注2) 仕向国と支払国の双方に引受実績が計上されている。

(注3) 当法人保有分: 当法人が保険責任を負っている金額 元受・受再ベースの数字から出再分を差し引いたもの。

(ii) 保険金支払の状況

2009年度の支払保険金の総額は、前年度比39.2%減の10,441百万円となりました。これは、キューバ外貨送金遅延に関わる非常事故が減少したこと等により、非常事故に係る支払額が前年度に比べ大幅に減少したことによるものです。他方で、世界的な金融危機の影響を受けて、信用事故に係る支払額は大幅に増加しました。

金融危機発生以降、お客様からの事故懸念報告は依然として高水準であるため、引受案件のモニタリング強化を通じ、お客様と一体となり保険事故回避に努めるとともに、事故が生じた際には迅速な保険金支払ができるよう備えています。

2009年度保険種別、非常・信用別支払保険金

(単位:百万円)

	支払保険金額									
		うち非常事故			うち信用事故					
		構成比	対前期増減率		構成比	対前期増減率				
		%	%		%	%		%	%	
貿易一般保険	9,591	91.9	44.0	3,268	100.0	80.6	6,323	88.1	2,274.2	
貿易代金貸付保険	97	0.9	-	0	0.0	-	97	1.4	-	
輸出手形保険	187	1.8	513.1	0	0.0	-	187	2.6	513.1	
輸出保証保険	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-	
前払輸入保険	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-	
海外投資保険	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-	
海外事業資金貸付保険	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-	
限度額設定型貿易保険	429	4.1	9,483.3	0	0.0	-	429	6.0	9,483.3	
中小企業輸出代金保険	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-	
再保険	137	1.3	-	0	0.0	-	137	1.9	-	
合計	10,441	100.0	39.2	3,268	100.0	80.6	7,173	100.0	2,280.3	

(iii) 回収

2009年度の回収金は、前年度比約51.0%減の20,515百万円と大きく減少しました。これは、リスキケ国の返済が順調に進み、予定返済額そのものが減少したことによるものです。

2009年度回収金

(単位:百万円)

	当法人分			国代位分			再保険分			合計		
		構成比	対前期増減率		構成比	対前期増減率		構成比	対前期増減率		構成比	対前期増減率
非常事故	5,029	94.2	12.1	8,235	100.0	72.8	4,186	60.3	5.8	17,451	85.1	56.8
リスケ	5,029	94.2	12.1	8,235	100.0	72.8	3,250	46.8	7.5	16,515	80.5	57.6
リスケ外	0	0.0	100.0	0	0.0	-	936	13.5	34.1	936	4.6	34.1
信用事故	312	5.8	246.4	0	0.0	-	2,752	39.7	100.7	3,064	14.9	109.6
合計	5,342	100.0	8.1	8,235	100.0	72.8	6,938	100.0	19.3	20,515	100.0	51.0

(iv) 責任残高

2009年度末の責任残高は、前年度比8.8%増の15,925,229百万円となりました。当法人保有分については、同10.0%増の1,506,694百万円となりました。

保険種別にみると、貿易一般保険における責任残高が、7,982,030百万円と最も大きく、次いで海外事業資金貸付保険の6,000,352百万円となり、貿易一般保険の責任残高が前年度末比15.0%減となった一方で、海外事業資金貸付保険の責任残高は前年度末比84.7%増となりました。また、当法人保有分については貿易一般保険が788,462百万円、海外事業資金貸付保険が533,909百万円となりました。

2009年度保険種別責任残高

(単位:百万円)

	責任残高					
	元受・受再ベース			うち当法人保有分		
		構成比	対前期増減率		構成比	対前期増減率
貿易一般保険	7,982,030	50.1	15.0	788,462	52.3	13.6
責任期間1年以内	2,029,412	12.7	15.3	203,262	13.5	15.3
責任期間1年超	5,952,618	37.4	14.9	585,200	38.8	13.1
貿易代金貸付保険	815,476	5.1	8.6	93,766	6.2	0.1
輸出手形保険	4,992	0.0	21.7	1,113	0.1	39.5
輸出保証保険	0	0.0	-	0	0.0	-
前払輸入保険	107	0.0	68.9	11	0.0	68.9
海外投資保険	790,936	5.0	2.3	56,791	3.8	8.9
海外事業資金貸付保険	6,000,352	37.7	84.7	533,909	35.4	89.8
限度額設定型貿易保険	11,952	0.1	13.2	1,195	0.1	13.2
中小企業輸交代金保険	161	0.0	94.0	17	0.0	58.6
再保険	319,223	2.0	18.2	31,430	2.1	18.8
アジア再保険	2,763	0.0	3.0	276	0.0	3.0
ワンストップショップ	316,460	2.0	18.4	31,153	2.1	19.0
合計	15,925,229	100.0	8.8	1,506,694	100.0	10.0

(注1) 当法人保有分:当法人が保険責任を負っている金額。元受・受再ベースの数字から出再分を引いたもの。

(注2) 保険契約締結日の為替レートを適用し、外貨建対応の特約付保険契約については、同特約の保険金額を用い作成。

保険種別責任残高の経年比較

(単位:百万円)

	2005年度末	2006年度末	2007年度末	2008年度末	2009年度末	構成比
貿易一般保険	6,909,197	8,797,253	9,498,844	9,394,309	7,982,030	50.1
責任期間1年以内	5,286,276	1,595,807	2,296,544	2,396,838	2,029,412	12.7
責任期間1年超	1,622,921	7,201,446	7,202,300	6,997,471	5,952,618	37.4
貿易代金貸付保険	1,278,882	1,208,377	1,013,783	891,894	815,476	5.1
輸出手形保険	7,865	7,310	7,849	6,373	4,992	0.0
輸出保証保険	5,648	383	0	0	0	0.0
前払輸入保険	2,113	14	589	345	107	0.0
海外投資保険	461,422	635,840	666,499	809,504	790,936	5.0
海外事業資金貸付保険	1,988,991	2,443,250	2,204,191	3,248,744	6,000,352	37.7
限度額設定型貿易保険	10,724	9,518	8,514	10,554	11,952	0.1
中小企業輸出代金保険	106	105	67	83	161	0.0
再保険	34,048	99,604	194,784	270,111	319,223	2.0
合計	10,698,998	13,201,654	13,595,120	14,631,918	15,925,229	100.0

(注1) 短期・中長期区分: 2005年度以前...短期(1年以内)、中長期(1年超)

2006年度以後...短期(1年以内・資本財を除く)・中長期(1年超・資本財を含む)

(注2) 事業年度末保険契約締結日の為替レートを適用し、外貨建対応の特約付保険契約については、同特約の保険金額を用い作成。

6. 参考資料

(1) 参考データ

引受実績の経年比較

(単位:百万円)

	引受実績					
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	構成比
貿易一般保険	11,499,704	14,290,499	9,084,734	8,344,955	6,231,455	76.0
責任期間1年以内	6,923,764	8,284,634	4,174,931	3,679,428	2,747,597	33.5
責任期間1年超	4,575,940	6,005,865	4,909,803	4,665,528	3,483,858	42.5
貿易代金貸付保険	106,659	60,805	83,626	41,335	91,382	1.1
輸出手形保険	38,132	32,758	29,178	25,886	19,986	0.2
輸出保証保険	0	0	0	0	0	0.0
前払輸入保険	2,004	14	889	345	107	0.0
海外投資保険	156,848	271,949	155,228	281,717	213,193	2.6
海外事業資金貸付保険	505,094	189,732	101,905	984,806	1,606,754	19.6
限度額設定型貿易保険	7,786	3,436	7,405	5,928	9,653	0.1
中小企業輸出代金保険	365	511	370	444	646	0.0
再保険	11,101	29,742	57,710	41,552	25,885	0.3
合計 (注1)	12,327,692	14,879,447	9,521,044	9,726,968	8,199,062	100.0
合計 (注2)	12,867,971	15,176,992	9,745,066	10,145,908	9,723,726	100.0

(注1) 契約締結日の為替レートを適用し、外貨建対応の特約付保険特約の保険金額ではなく、実勢の保険引受金額を用いて作成した合計額

(注2) 2006年度までの計算方法を用いた合計額 すなわち、契約締結時の為替レートを適用し、外貨建対応の特約付保険契約の保険金額を用いて作成した最大の引受実績額

保険金の経年比較

(単位:百万円)

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	構成比
非常事故	1,909	1,869	2,495	16,858	3,268	31.3%
信用事故	1,770	562	1,305	301	7,173	68.7%
合計	3,680	2,431	3,800	17,159	10,441	100.0%

回収金の経年比較

(単位:百万円)

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
回収金額	228,739	247,312	57,463	41,855	20,515

責任残高(事業年度末為替レート適用)

年度末為替レート(経年比較においては、各事業年度末の為替レート)を適用し作成した責任残高(外貨建対応の特約付保険契約の保険金額を用いない実勢の責任残高。)は、以下の通りとなります。

(i) 2009年度保険種別責任残高と経年比較(事業年度末為替レート適用)

2009年度保険種別責任残高

(単位:百万円)

	責任残高					
	元受・受再ベース			うち当法人保有分		
		構成比	対前期 増減率		構成比	対前期 増減率
		%	%		%	%
貿易一般保険	7,959,765	69.5	14.7	786,235	70.6	13.3
責任期間1年以内	2,022,794	17.7	15.6	202,600	18.2	15.5
責任期間1年超	5,936,971	51.9	14.4	583,635	52.4	12.5
貿易代金貸付保険	500,438	4.4	4.7	70,642	6.3	2.6
輸出手形保険	4,992	0.0	21.7	1,113	0.1	39.5
輸出保証保険	0	0.0	-	0	0.0	-
前払輸入保険	107	0.0	68.9	11	0.0	68.9
海外投資保険	790,936	6.9	2.3	56,791	5.1	8.9
海外事業資金貸付保険	2,030,689	17.7	62.8	182,517	16.4	70.2
限度額設定型貿易保険	11,952	0.1	13.2	1,195	0.1	13.2
中小企業輸出代金保険	161	0.0	94.0	17	0.0	58.6
再保険	147,313	1.3	18.1	14,490	1.3	18.8
アジア再保険	594	0.0	56.1	59	0.0	56.1
ワンストップショップ	146,719	1.3	18.9	14,431	1.3	19.6
合計	11,446,354	100.0	5.1	1,113,011	100.0	3.3

(注1) 当法人保有分:当法人が保険責任を負っている金額 元受・受再ベースの数字から出再分を引いたもの。

(単位:百万円)

	2005年度末	2006年度末	2007年度末	2008年度末	2009年度末	構成比
						%
貿易一般保険	6,865,294	8,746,616	9,452,265	9,336,297	7,959,765	69.5
責任期間1年以内	1,148,924	1,588,502	2,296,544	2,396,838	2,022,794	17.7
責任期間1年超	5,716,370	7,158,114	7,155,721	6,939,458	5,936,971	51.9
貿易代金貸付保険	852,912	828,740	658,789	524,937	500,438	4.4
輸出手形保険	7,855	7,310	7,849	6,373	4,992	0.0
輸出保証保険	5,648	383	0	0	0	0.0
前払輸入保険	2,113	14	589	345	107	0.0
海外投資保険	461,490	635,840	666,499	809,504	790,936	6.9
海外事業資金貸付保険	1,046,441	1,139,627	820,981	1,247,619	2,030,689	17.7
限度額設定型貿易保険	8,576	9,518	8,514	10,554	11,952	0.1
中小企業輸出代金保険	110	105	67	83	161	0.0
再保険	17,841	58,839	91,129	124,769	147,313	1.3
合計	9,268,280	11,426,992	11,706,683	12,060,482	11,446,354	100.0

(ii) 2009年度地域別責任残高と経年比較(事業年度末為替レート適用)

2009年度地域別責任残高

(単位:百万円)

	責任残高					
	元受・受再ベース			うち当法人保有分		
		構成比	対前期 増減率		構成比	対前期 増減率
		%	%		%	%
アジア	4,305,435	36.4	11.3	407,387	35.3	10.2
中東	2,531,022	21.4	21.6	249,196	21.6	18.1
ヨーロッパ	1,237,234	10.4	9.2	125,253	10.9	4.1
北米	869,422	7.3	41.0	86,466	7.5	41.6
中米	735,762	6.2	8.0	76,019	6.6	7.5
南米	750,377	6.3	4.8	68,650	6.0	1.7
アフリカ	903,281	7.6	13.5	88,815	7.7	14.9
オセアニア	349,574	3.0	40.3	34,924	3.0	40.2
国際機関	158,757	1.3	65.9	15,751	1.4	72.1

(注1) 受再を含む。

(注2) 国際機関の支払い保証が付されている場合は、別枠に計上。

(注3) 国別計上の方法: 船前.. 仕向国 船後.. 支払国 但し保証が付されている場合は保証国・保証国際機関

(注4) 仕向国と支払国の双方に責任残高が計上されている。

(注5) 当法人保有分: 当法人が保険責任を負っている金額。元受・受再ベースの数字から出再分を差し引いたもの。

(単位:百万円)

	2005年度末	2006年度末	2007年度末	2008年度末	2009年度末	構成比
						%
アジア	3,613,667	4,318,977	5,033,273	4,852,423	4,305,435	36.4
中東	2,447,143	3,506,244	3,391,304	3,228,462	2,531,022	21.4
ヨーロッパ	1,070,816	1,160,782	961,229	1,133,428	1,237,234	10.4
北米	559,228	746,514	485,556	616,611	869,422	7.3
中米	755,131	680,694	674,646	681,062	735,762	6.2
南米	540,260	577,912	581,118	788,489	750,377	6.3
アフリカ	254,352	400,279	564,374	796,105	903,281	7.6
オセアニア	152,107	191,673	177,410	249,099	349,574	3.0
国際機関	175,016	154,641	159,662	95,667	158,757	1.3

(注1) 受再を含む。

(注2) 国際機関の支払い保証が付されている場合は、別枠に計上。

(注3) 国別計上の方法: 船前.. 仕向国 船後.. 支払国 但し保証が付されている場合は保証国・保証国際機関

(注4) 仕向国と支払国の双方に責任残高が計上されている。

(2) 中期目標

独立行政法人日本貿易保険中期目標

平成21年2月27日
経 済 産 業 省

我が国の貿易保険制度は、昭和25年の制度発足以来、我が国企業の貿易・投資に関して、戦争や為替取引の制限といった通常の保険では負担することのできないリスクをカバーしてきた。貿易立国である我が国企業の貿易・投資における国際競争力の維持・強化に加えて、最近では、石油や鉱物資源等の資源の安定供給の確保や、地球環境問題に対応した我が国の環境・省エネ技術の海外展開への貢献も期待されている。

さらに、昨今の国際金融情勢は、サブプライム問題に起因し、世界的な金融機関の信用収縮、株価の下落などの深刻な危機に直面しており、世界的に企業の貿易投資活動に対する資金供給の停滞が懸念されている中で、種々の国際会合において公的輸出信用供与の重要性が確認されるなど、貿易保険に期待される役割は極めて大きくなっている。

独立行政法人日本貿易保険（以下「日本貿易保険」という。）は、我が国の貿易保険制度の実施機関として平成13年に創設され、独立行政法人通則法に基づく組織管理、業務運営を行ってきた。国の通商政策等と連携しつつ、専門的かつ質の高いサービスを、効率的かつ効果的に行うために設立されたものである。その後平成19年に独立行政法人全体について見直しが行われた結果、「独立行政法人整理合理化計画」（平成19年12月24日閣議決定）において、「経営の自由度と効率性を高めるため、全額政府出資の特殊会社に移行する」こととされている。

これを踏まえ、産業構造審議会貿易保険小委員会においては、貿易保険の意義や最近の経済環境の変化等を踏まえ、今後の貿易保険制度の在り方について総合的に検討を行い、平成20年7月に中間とりまとめが行われたところである。中間とりまとめでは、保険商品や組織・運営の見直しにより、貿易保険が環境変化に柔軟かつ迅速に対応し、より一層の政策的効果を発揮するとともに、サービス・効率性の向上が実現することを求めている。

以上を踏まえ、日本貿易保険の中期目標は以下のとおりとする。

1. 中期目標の期間

中期目標の期間は、平成21年4月1日から平成24年3月31日までの3年間とする。ただし、終期到来前に新組織形態への移行が行われた場合、移行の前日までとする。

2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

貿易保険利用者からは、保険商品について、企業の取引形態やリスクの変化に応じ、柔軟かつ迅速な対応を行うことが求められているところであり、諸外国とのイコールフットイングの確保や、我が国法制及び国益との整合性を前提としつつ、利用者からの要望について個別具体的に検討の上、実施することが期待される。また、国際金融危機等国際経済情勢への機動的な対応や、国が政策上の観点から重点的に取り組むべき分野について、引き続き戦略的かつ重点的に対応していくことが求められる。民間保険会社の参入の円滑化についても引き続き、貿易保険サービスの安定的な提供の確保に留意しながら、民間におけるサービス提供機会の拡大を通じて、官民全体によるユーザーに対するサービス向上につながるよう、協調保険等の実施や民間保険会社に対する情報・ノウハウの提供・共有を行うことが期待される。

(1) 商品性の改善

国境を超えた多国間での企業間競争が激化する中で、我が国企業の国際競争力を確保するよう、利用者のニーズの変化に的確に対応した保険商品を提供するよう努めること。

利用者のニーズに即した現行保険商品の見直し

近年の金融取引の高度化・我が国企業の対外取引形態の複雑化に対応し、個々の企業の貿易保険に対するニーズも多様化していることを踏まえ、日本貿易保険においては、既に平成19年度より組合包括保険制度に付保選択制を導入しているほか、保険料率や商品性
の見直し、新商品の開発を含め現行貿易保険商品の見直しを行ってきたところであるが、諸外国において提供される貿易保険サービスの内容も参考としつつ、商品の簡素化を始め現在提供している貿易保険サービスの商品性の改善に不断に取り組むこと。

例えば、ストックセールスなど最近の取引形態への制度的対応などについて、検討し、可能なものから実施すること。

また、国際金融危機の下、国際金融変動のセーフティネットとして、政府及び関係機関と連携し、我が国企業の貿易投資活動に対する資金供給の円滑化のための取組みについても、金融環境の変化に応じ迅速に対応すること。

国境を超えた多国間での企業間競争が激化する中で、我が国企業の国際競争力を確保するよう、利用者のニーズの変化に的確に対応した保険商品を提供するよう努めること。

(2) サービスの向上

現在行っている業務について、利用者の視点に立ち、以下のサービスの向上に一層努めること。

利用者の負担軽減

引受申請等に係る諸手続や提出書類の合理化・簡素化をさらに進めること。第四期システムのオンライン機能を活用したWEBサービスの拡充や、ルール運用の明確化等を推進すること。また、海外貿易保険機関等との連携を通じたワンストップ化等を進めることにより、利用者の手続面での負担の軽減を図ること。

平成21年1月より保険事故前輸出代金債権の流動化支援を実施しているところであるが、今後、利用者の売掛債権早期現金化ニーズ等に積極的に応じていくためにも、更なる利用者サービスの向上につながるよう努めること。

また、パリクラブてん補割れ債権譲渡承認制度及びパリクラブてん補割れ債権の日本貿易保険への譲渡承認制度を設立し、利用者の債権管理コストの削減等に努めてきたところであるが、引き続き、利用者のニーズに応じたサービスの向上に努めること。

意思決定・業務処理の迅速化

意思決定及び業務処理の方法について改善を行うことにより、引受審査、保険金査定、債権回収等の各業務について処理の迅速化を図ること。なお、その際の目安として、下記の基準を満たすよう努めること。

- ・信用リスク（註1）に係る保険金の査定期間を60日以下とする。
- ・保険料の試算に関する問い合わせには、必要な情報を提供された翌営業日まで（中長期 Non-L/G 信用案件（註2）については5営業日以内）に回答する。
- ・提出された保険契約申込書等に不備がある場合、5営業日以内に連絡する。
- ・提出された保険金請求書及び添付書類に不備がある場合、3営業日以内に連絡する。
- ・具体的な案件に係る利用者からの制度面の照会には5営業日以内に回答する。
- ・政府が締結する債務繰延協定等に基づく保険事故債権に係る回収金の配分は、日本貿易保険の口座に全額入金を確認された日の翌営業日までに送金処理の手続きを的確に行う。

（註）

- 1) 「信用リスク」とは、一般的に、保険の目的となる契約の相手方の破産や債務の履行遅滞による損失発生危険性を指す。
- 2) 「中長期 Non-L/G 信用案件」とは、信用供与期間が2年以上で、政府保証等がつかず、かつ、信用リスクをてん補している案件。

業務運営の透明化とコンプライアンスの徹底

利用者を含め国民に対して業務内容や組織・業務運営の状況を明らかにし、事業の公正かつ透明な実施を確保するべく、情報公開を積極的に行うこと。

また、コンプライアンスについては、その維持・徹底に向けた取組を一層強化するとともに、機密情報・個人情報保護を含めた情報管理の徹底等に努めること。

上記のほか、利用者の意見を常に聴取し、サービスの向上に努めること。

(3) 利用者のニーズの把握・反映やリスク分析・評価の高度化のための体制整備

利用者のニーズを的確に把握して保険商品に反映させるとともに、リスク分析・評価の高度化を図るための体制整備に努めること。

広報・普及活動とニーズの把握・反映

保険商品に関する広報・普及活動を積極的に展開し、これまで貿易保険サービスを利用したことがない中堅・中小企業等の潜在的な利用者のニーズ及び既存の利用者についても定期的なニーズ調査等を通じ的確に把握・反映すること。

リスク分析・評価の高度化のための体制整備

サブプライム問題に起因する世界的な金融危機の広がりに見られるように、世界的にリスクの高度化・広範化が進む中で、貿易保険サービスの提供に当たって、これまで以上にリスク・マネジメントの充実を図ることが求められているところ。リスク審査手法の高度化や与信枠設定等のリスク管理手法の整備等を通じて、リスクの分析・評価の体制を一層整備するとともに、リスク評価に見合った保険料率の設定に努めることにより、より高度かつ複雑なリスク審査を必要とする案件の引受を的確に行うことができるようにすること。

その際の指標としては、中長期 Non-L/G 信用案件等の高度かつ複雑なリスク審査を必要とする案件の引受状況も参照しつつ（註）、リスクの分析・評価の精緻化のための具体的な取組状況等を評価する。

また、当該案件の保険事故があった場合には、その要因を検証するとともに、必要な場合には、分析・評価体制の見直しを迅速に行うこと。

（註）中長期 Non-L/G 信用案件は、近年、途上国において政府保証の発出が減少していることを踏まえ、我が国企業からの引受ニーズが増加しつつあるところ、当該案件の引受件数や保険料収入の全体に占める割合は、日本貿易保険において、高度かつ複雑な

リスク審査を行う必要性がどの程度増加し、対応が図られているかを示すもの。

専門能力の向上

上記を含め、利用者のニーズに対応して質の高いサービスを提供するための体制整備を図るため、日本貿易保険は、非公務員型独立行政法人として制度的自由度が一層高い組織形態を採用していることを踏まえ、専門能力を有する人材の登用や能力開発を通じ、リスク分析、貿易実務、国際金融ビジネス等に関する職員の高度な専門的知見を涵養すること。また、専門性の高い職員を定着させ、その能力を最大限引き出せるよう魅力ある就業環境を形成すること。

内部統制の整備

専門性の高い人材の確保により情報収集能力や分析能力の向上を図るとともに、プロセス管理に重点を置きつつ、業務の効率性・有効性や法令遵守等の担保も含めた内部管理体制の充実を図るための準備を行うこと。

情報開示による透明性の確保

企業会計基準に基づく財務諸表や経営実態をわかりやすく開示するとともに、貿易保険の政策的意義や長期間にわたる収支相償等の特性について十分に説明し、業務運営に対する国民の理解を図るための準備を行うこと。

(4) 重点的政策分野への戦略化・重点化

日本貿易保険は、国の通商政策、産業政策、資源エネルギー政策等との密接な連携に努めること。中でも以下に掲げるような政府として重点的に取り組むべき分野について一層戦略化・重点化しつつ、引受けの質的及び量的な拡大を図ること（その際の指標として、商品性の改善や引受けの内容等の制度面での取組に加え、その利用状況や当該分野の保険料収入及びその全体に占める割合などを使用する。）

こうした重点分野は、毎年度計画策定前に経済産業大臣が日本貿易保険に対して提示する場合にはそれを踏まえるとともに、日本貿易保険が行う国別引受方針の見直しにおいては、国の政策と一致させるよう努めること。

金融危機への機動的な対応

新興国の成長等に伴う世界経済の拡大と一体化が進む中で、経済の好不況の周期の影響も、拡大・一体化する傾向にある。現下の金融危機の中で、国際金融変動のセーフティネットとして、政府及び関係機関と連携し、我が国企業の貿易投資活動に関する資金供給が円滑に行われるよう、企業のニーズに対応した貿易保険の引受に努めること。とりわけ、

民間金融機関のファイナンスが機能しない場合において我が国企業の貿易投資活動が停滞することがないように、貿易保険の安定的な引受を行うこと。

また、世界的な金融危機への対応については、各国貿易保険機関と協調して取り組むことが不可欠であり、このために必要な国際的対応について積極的にイニシアティブを取ること。

この一環として、海外諸国の貿易保険機関との再保険協定の拡大や人材育成・情報交換などの協力を行い、貿易保険ネットワークの構築を進めること。

資源・エネルギーの安定供給確保支援

今後とも、中長期的な資源・エネルギーの安定供給の確保が求められるところ。既に、日本貿易保険は、平成19年度より資源エネルギー総合保険を創設するとともに、複数の海外資源メジャーとの直接協力を強化してきたところであるが、引き続き我が国企業による海外資源開発や周辺インフラ整備等への積極的な取組の支援に努めること。

環境社会構築への支援

日本貿易保険においては、我が国の省エネ・新エネ技術の移転等により温室効果ガスの排出低減に貢献する取組の一環として、平成21年1月より地球環境保険制度を創設したところであるが、今後、本制度の活用により、省エネ・新エネを推進する我が国の製品の輸出やプロジェクトの推進に努めること。

また、OECD合意に基づく環境社会配慮ガイドラインについて、関係諸機関と連携し適切な見直しを行ったところであるが、引き続き的確な審査を行うこと。

中堅・中小企業の国際展開支援

我が国企業、特に中堅・中小企業による輸出取引や投資等の国際展開を支援するため、そのニーズに対応したサービスの提供を行うとともに、中小企業輸出代金保険をはじめ貿易保険の更なる利用促進につながるよう様々なチャンネルを利用した広報・普及に努めること。

航空機、原子力、サービスその他の分野における支援

航空機など、海外展開に当たって高いリスクを有する事業の実施について、他国に比べ遜色のない形で保険商品の設計・提供を行うよう努めること。原子力分野については、安全の確保を前提に、米国等における原子力発電所建設に係る我が国企業の輸出に対する保険引受を検討すること。

サービス分野等新たな国際展開が期待される分野への対応や、官民連携によるインフラプロジェクトの推進などその他の重点的な政策分野についても、我が国企業のニーズに対応し、商品性の改善等について検討し、積極的に取り組むこと。

(5) 民間保険会社による参入の円滑化

日本貿易保険は、民間保険会社の参入により我が国企業のニーズに対応した商品やサービスの多様化が図られるよう、民間参入の円滑化のための環境整備に努めること。

協調保険の推進

民間保険会社によるサービス提供機会の拡大を通じて、官民全体によるユーザーに対するサービスの向上につながるよう、日本貿易保険においては、民間保険会社との協調保険の実施に向けた体制強化を行い、早期に実施するとともに、実施後のユーザーニーズを踏まえ更なる商品の見直しについても検討すること。

民間保険会社に対する情報・ノウハウの提供・共有

公表資料やホームページ等を通じた情報公開に加え、個々の利用者との関係で問題とならない範囲において、民間保険会社への業務委託等を通じて情報・ノウハウの提供・共有が円滑に行われるようにすること。

3 . 業務運営の効率化に関する事項

第一期・第二期中期目標期間中に取り組んだ業務運営の効率化を一層推進すべく、更なるコスト意識の徹底、業務処理の合理化に努めるとともに、第四期システム開発の効果を最大限発揮させることにより、効率的かつ安定的な事業基盤を確立することが必要である。

(1) 業務運営の効率化

貿易保険は、政府が運営費交付金を充当することなく、利用者から支払われる保険料等を収入原資として運営しているものであるが、支出にあたっては、費用対効果を十分検討する等によりコスト意識の徹底を図り、効率的な業務運営に努めること。

日本貿易保険の業務運営に際しては、全ての支出の要否の検討、廉価な調達等に努めることにより、効率化を図ること。特に、既存業務の徹底した見直し、効率化を進めることとし、その業務費（人件費を含む。）については、第二期中期目標期間において第一期中期目標期間の最終年度（平成16年度）の実績と比較して10%を上回る削減を達成すべく求めたところであるが、本中期目標期間においても「独立行政法人の主要な事務及び事業の改廃に関する勧告の方向性」（平成19年12月21日、政策評価・独立行政法人評価委員会）を踏まえ、業務費については、最大限の努力を行うことにより、第二期中期目標期間におい

て削減を達成した水準以下とすること。

そのために、一般管理費については、当該中期目標期間中、平成20年度の一般管理費相当額を基準にして、毎年度1%以上の削減を行うこと。

(注1) 第四期システム開発関連経費、組織形態移行に伴う経費等の特殊要因経費及び中期目標の実現のために新規に追加・拡充される経費は、上記の効率化指標となる業務費及び一般管理費の算出からは除く。

(注2) 一般管理費とは、役員及び総務部のシステム部門を除く一般管理部門の人件費・賃借料・業務委託費・外国旅費など管理業務に係る経費とする。

総人件費(退職手当等を除く。)については、簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律(平成18年法律第47号)等を踏まえ、国家公務員に準じた人件費削減の取組を行うこと。

給与水準については、十分に国民の理解を得られるものとなっているかなどの観点から検証を行い、現行の水準を維持する合理的な理由がない場合には必要な措置を講ずることにより、給与水準の適正化に速やかに取り組むとともに、その検証結果や取組状況について公表すること。

契約については、「随意契約見直し計画(平成19年12月)」に基づく取組を着実に実施し、その取組状況を公表するとともに、一般競争入札等により契約を行う場合であっても、特に企画競争や公募を行う場合には、競争性及び透明性が十分確保される方法により実施すること。また、監事及び会計監査人による監査において、入札・契約の適正な実施についてチェックを受けること。

民間機能の一層の活用を通じて業務運営の効率化に積極的に取り組むこと。特に、既に民間委託を導入している一部の保険商品の販売・斡旋業務については、引き続き、金融機関等との連携のあり方を検討しつつ、民間委託の範囲の拡大を図ること。

(2) システムの効果的な開発及び円滑な運用

第四期システムのシステム保守・追加改造の効率化・迅速化を通じ、利用者に対するサービスの向上、業務運営の効率化・迅速化を実現すること(組織の見直しに係る会計、税制、災害・事故等緊急時の事業継続計画等の対応に加え、新商品の開発・販売、国の再保険や債権管理業務への円滑な対応を含む。)その際の指標として、第四期システムの具体的な効果を示すほか、第四期システムの保守費用が第三期システムの保守費用を下回るように努める

こと。

4. 財務内容の改善に関する事項

利用者に対して「確実な安心」を継続的かつ安定的に提供していくためには、健全な財務内容の維持が必要不可欠であり、そのための努力を行うことが必要である。

(1) 財務基盤の充実

貿易保険は、世界的な規模の経済危機や戦乱のような予見できない異常事態に係るリスクを引き受けるものであることから、こうした事態に備えて保険金支払いのための財務基盤を充実させることが必要である。このため、貿易保険事業について長期的な収支相償の実現を目指すべく、業務運営の効率化や的確なリスク・マネジメントを通じた支出の抑制を図るとともに、保険事故債権の適切な管理や回収の強化等による収入の確保に取り組むこと。

(註)

- 1) 貿易保険事業の特殊性から、単年度ベースでの経常収支相償を常時求めることは困難である。
- 2) 収入確保の一環としての資金運用にあたっては、現時点での財務基盤の状況を踏まえれば、日本貿易保険による迅速な保険金支払能力に支障をきたさないよう、独立行政法人通則法第47条に規定され、かつ元本保証された方法に限定とすること。

(2) 債権管理・回収の強化

保険事故債権の適切な管理及び回収の強化を図ることにより安定的な収入の確保に取り組むことは、長期的な収支相償を実現する上での重要な鍵である。このため、債権データの管理を的確に行うことはもとより、国の関係機関と緊密な連携を図るとともに、職員の専門能力の涵養等により、回収能力を強化すること。

非常リスクに係る保険事故債権については、パリクラブ等への対応を含め、政府が行う保険事故に係る債務履行確保等に関する諸外国との交渉に対して積極的かつ的確な対応を図ること。

信用リスクに係る保険事故債権については、利用者等の協力を得つつ積極的な回収に取り組むこと（その際の目安として、中期目標期間終了時において期間平均回収実績率20%を達成するように努めること（註））

(註)

回収実績率の目安については、回収の対象となる保険事故債権の内容、債務者の財

務状況、債務者の居住国における倒産法制等の外的要因に左右されること、回収努力(返済計画の確定等)から実際の成果が上がるまで一定のタイムラグが生じる場合が多いこと等の諸要素を十分考慮して判断するためにも、期間平均の実績を採用する。また、この期間平均回収実績率を次式により定義する(第一期中期目標期間における回収実績率と異なるもの)。

$$\text{期間平均回収実績率} = \frac{\text{期間平均値(各事業年度の回収金額)}}{\text{期間平均値(回収金を得た案件及び回収不能が確定した案件に係る保険金支払額)}}$$

また、査定・回収業務を通じて蓄積したノウハウを商品開発・営業・審査部門にフィードバックするとともに、利用者等や国の関係機関と協力して必要な対応を機動的に講じ、事故発生の防止、損失の軽減に努めること。

保険事故債権の管理においては、その評価・分析手法の改良に努め、適切な経理処理を行うこと。

(3) 中期計画

独立行政法人日本貿易保険第3期中期計画

09 - 一般 - 00083

平成21年2月27日

1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

我が国企業の国際競争力確保の観点から、お客様のご要望や通商・産業政策上の要請を積極的に汲み取り、諸外国と比較して遜色のない質の高いサービスを提供できるよう、商品の改善・開発に努めます。

(1) 商品性の改善

我が国企業の国際競争力確保の観点から、お客様のご要望や通商・産業政策上の要請を積極的に汲み取り、諸外国と比較して遜色のない質の高いサービスを提供できるよう、商品の改善・開発に努めます。

現行保険商品の見直し

貿易保険商品について、その商品性の改善に不断に取り組んでまいります。そのため、お客様からのご要望の聴取や、金融取引・対外取引形態の変化、各国貿易保険機関の提供する商品等に関する調査を定期的に行い、商品見直しの必要性を検討してまいります。具体的には、与信条件の見直しや、付保対象となる契約形態の範囲拡大、引受リスク細分化の検討、商品の簡素化など、現行商品の使い勝手を向上させるほか、必要に応じて新商品の開発を行い、引き受けリスクの質的拡大を図ります。

例えば、ストックセールスなど近年の取引形態への制度的対応などについても検討し、可能なものから実施します。なお、その内容や時期については、年度計画において定めてまいります。

また、国際的な金融危機への対応については、国際金融変動のセーフティネットとして、政府及び関係機関と連携し、お客様のビジネスニーズに対し円滑な資金供給が行われるよう、金融環境の変化に応じ迅速に対応するとともに、積極的に制度及び運用の改善を図ります。

(2) サービスの向上

常にお客様の視点に立って、サービスの改善・向上に努力し、お客様との信頼関係の構築

に努めます。

お客様の負担軽減

保険引受申請や査定など、お客様にお願いする諸手続について、その必要性を検証し、プロセスや必要提出書類の簡素化・合理化を可能な限り進めるとともに、わかりにくいルール運用については明確化を行い、お客様の負担を軽減します。4期システム（SPIRIT-ONE）については、お客様のニーズを踏まえオンライン機能を活用したWEBサービスの更なる拡充、手続・情報提供の簡素化・効率化に努めます。また、引き続き各国貿易保険機関との再保険協定締結を推進し、再保険ネットワークを拡充することにより、複数国にまたがって国際共同事業を展開するお客様の保険手続を手続きワンストップ化することを可能にし、お客様の手続面での負担の軽減を図ります。

平成21年1月より保険事故前輸出代金債権の流動化支援を実施していますが、今後、お客様からの早期現金化ニーズ等を踏まえ、債権流動化スキームの一般化等を進めて行く等、更なるお客様サービスの向上を図ります。

パリクラブてん補割れ債権譲渡承認制度及びパリクラブてん補割れ債権の日本貿易保険への譲渡承認制度については、お客様のニーズを踏まえ、より良いサービスとなるように、引き続き制度改正・運用に努めます。

意思決定・業務処理の迅速化

保険業務運営に係る知見を集約したナレッジシステム（NEXIライブラリー）については、その内容について組織内での共有を徹底するとともに、業務実態に即した現在の組織体制の見直し等を不断に行い、意思決定・業務処理を迅速化します。

その際、下記の基準を厳守し、お客様との信頼関係の確立に努めるとともに、一層の迅速化に努めます。

- ・ 信用リスクに係る保険金の査定期間を60日以下とする。
- ・ 保険料の算出を迅速化するために必要な簡素化を行った上で、試算に関する問い合わせには、必要な情報を提供された翌営業日まで（中長期 Non-L/G 信用案件については5営業日以内）に回答する。
- ・ 提出された保険契約申込書等に不備がある場合、5営業日以内に連絡する。
- ・ 提出された保険金請求書及び添付書類に不備がある場合、3営業日以内に連絡する。
- ・ 具体的な案件に係るお客様からの制度面の照会には5営業日以内に回答する。
- ・ 政府が締結する債務繰延協定等に基づく保険事故債権に係る回収金の配分は、日本貿易保険の口座に全額入金を確認された日の翌営業日までに送金処理の手続きを的確に行う。

業務運営の透明化とコンプライアンスの徹底

ホームページや各種広報媒体を通じ、業務内容や組織・業務運営の状況についてお客様を含めた国民の皆様に対して明らかにするなど、情報公開を自ら積極的に行い、事業の公正かつ透明な実施を確保します。

また、内部の業務管理体制を強化するとともに、法令の遵守（コンプライアンス）、機密情報・個人情報保護を含めた情報管理の徹底に努めるほか、常に社会責任を自覚し、外部環境に配慮した組織運営を行います。

上記のほか、お客様憲章の徹底、お客様の意見聴取・ニーズの把握を常に行い、お客様との信頼関係を確立するとともに、お客様にとってより利便性が高く多様なサービスを提供できる体制を整えます。

（３）お客様のニーズの把握・反映やリスク分析・評価の高度化のための体制整備

お客様のニーズを的確に把握して保険商品に反映させるとともに、リスク分析・評価の高度化を図るための体制整備に努めます。

広報・普及活動とニーズの把握・反映のための体制整備

現在の保険商品に関する広報・普及体制を充実させ、潜在的なお客様の発掘を積極的に展開します。

具体的には、ホームページやパンフレット等での広報活動に加えて、本店・支店の職員が貿易保険を利用されたことのないお客様への商品のご紹介を積極的に行い、新たな顧客基盤の獲得に努めます。また、こうしたお客様にアクセス可能な内外の関係諸機関との連携を強化し、効率的な普及活動を行います。

その際、新たなお客様のビジネス実態を踏まえるとともに既存のお客様についても定期的な調査等を通じ、お客様のニーズに応じた商品性の改善・新商品の開発を行い、保険制度の一層の普及につなげます。

リスク分析・評価の高度化のための体制整備

金融取引の高度化・我が国企業の対外取引の複雑化を背景に、高度・複雑かつ広範なリスク審査が必要とされる案件の引受が増大傾向にあることに鑑み、現在の案件のリスク審査手法や、バイヤーの与信管理・国別与信枠の設定などのリスク管理手法をより精緻化し、リスク引受能力の強化を図ります。

また、引受リスクに見合った保険料率の設定を行います。

大型の保険金支払が生じた場合については、商品開発・営業・審査部門の業務の適正化・効率化に資するためにも、その事故原因について、査定回収を含めた各担当者が共同で十分な検討を行います。これを踏まえて、審査・リスク管理、査定回収および保険

引受条件等のあり方について見直しを実施するほか、必要に応じた態勢整備を実施します。

専門能力の向上

対外取引の複雑化、産業界のニーズの変化等に伴い、貿易保険がてん補すべきリスクの性質も一層複雑なものとなりつつあることに鑑み、ニーズに応じて質の高いサービスを提供できる専門化集団となるよう組織全体の能力向上に引き続き努めます。

具体的には、非公務員型独立行政法人として制度的自由度が一層高い組織形態を採用していることを踏まえ、リスク分析、貿易実務、国際金融ビジネス、企業財務等に関する専門知識を有する人材の採用を進めるほか、プロパー職員の定着、十分な職員研修等を実施し、高度な専門性と実践能力の獲得に努めます。

また、職員の能力を最大限引き出せるよう、第二期目標期間中に整備した目標管理・人事考課制度については、更なる効果的な運用を図るため所要の改善を実施します。

その他、審査・情報収集能力や回収能力等を強化するため、日本政府をはじめとする国内外の関係諸機関との有機的な連携体制を整え、本邦企業による対外取引をより多面的かつ効果的にバックアップします。

内部統制の整備

専門性の高い人材の確保により情報収集能力や分析能力の向上を図るとともに、プロセス管理に重点を置きつつ、業務の効率性・有効性や法令遵守等の担保も含めた内部管理体制の充実を図るために必要な体制を構築する準備を行います。

情報開示による透明性の確保

第一期・第二期中期目標期間においても原則企業会計原則に基づく財務諸表の公表・経営実態を適切に反映した事業報告書の公開等を通じ、お客様を含めた国民の皆様への適切な情報開示に努めてまいりました。透明性を確保する観点から、こうした情報を一層わかりやすく開示するよう努めるとともに、貿易保険の政策的意義や長期間にわたる収支相償等の特性について十分に説明し、NEXIの業務運営について国民の皆様の理解を深められるよう準備を行います。

(4) 重点的政策分野への戦略化・重点化

我が国対外取引の発展を担う公的機関としての役割に鑑み、国の通商政策、産業政策、資源エネルギー政策等における要請を十分に踏まえ、中期目標に示されている政策課題の達成に率先してとりくみ、その達成に向けて当該分野の引受リスクの質的および量的な拡大を図ります。

このため、以下政策課題について、政策上の具体的要請を把握した上で、各年度計画に必

要な制度上の具体的対応策を盛り込み、着実に実行に移します。

また、当該分野の引受リスク拡大に向けた商品・制度の普及に努め、政策の実現に貢献します。国別引受方針の見直しについては、国毎のリスクを踏まえつつ、国の政策と一致させるよう努めます。

金融危機への機動的な対応

世界的な金融危機への対応については、平成21年1月より緊急措置を講じているところですが、国際金融変動のセーフティネットとして、政府及び関係機関と連携し、お客様のビジネスニーズに対し円滑な資金供給が行われるよう、お客様のニーズに対応した貿易保険の引受を行います。とりわけ、民間金融機関のファイナンスが機能しない場合において我が国企業の貿易投資活動が停滞することがないよう、貿易保険の安定的な引受を行います。

また、世界的な金融危機への対応については、各国貿易保険機関と協調して取り組むことが不可欠であり、このために必要な国際的対応について積極的にイニシアティブをとります。

この一環として、既に欧米11機関・アジア2機関の海外輸出信用機関と再保険協定を締結し、お客様の取引・海外展開を支援しているところですが、2008年11月に東京で開催されたアジア貿易保険機関会合において二国間の再保険強協定の拡大を通じアジア全域をカバーする再保険ネットワーク構築に合意したところであり、この実現に向けた取組を含め人材育成・情報交換など各国貿易保険機関との協力を推進していきます。

資源・エネルギーの安定供給確保支援

我が国の原材料・エネルギー資源の中長期的な安定確保に貢献できるよう、お客様の海外での資源開発やインフラ整備等への取り組みを積極的にサポートします。

具体的には、我が国の資源・エネルギーの安定供給確保を促進するため、第二期中期目標期間中に創設した資源エネルギー総合保険の引受を積極的に行うとともに、海外資源メジャーとの直接協力の強化等を図ります。

環境社会構築への支援

グローバルな環境問題への意識の高まりを踏まえ、公的輸出信用機関としての社会的責任を果たすため、当該分野への対応を強化してまいります。

具体的には、新たに創設した地球環境保険を活用し、省エネ・環境改善に資する案件及び京都メカニズムを活用する案件について、適切なリスク審査を行いつつ引受を進めるとともに、地球温暖化対策の重要性に鑑み、世界的なCO₂排出量の削減に貢献するための保険商品について更に検討をすすめます。

また、OECDにおける環境共通アプローチの議論等を踏まえ改定した新たな環境社会配慮ガイドラインによる審査を的確に行うとともに、効率的かつ適切な審査を担保する態勢を整備します。

中堅・中小企業の国際展開支援

中堅・中小企業のお客様の外国における市場開拓がスムーズとなるよう、お客様のニーズに対応したサービスを提供し、積極的なサポートを行います。

また、中堅・中小企業のお客様に中小企業輸出代金保険をはじめとする貿易保険商品をご利用いただく機会が増えるよう、関係諸機関とも連携して、普及・広報の取り組みを強化します。

航空機、原子力、サービスその他の分野における支援

航空機分野については、我が国企業が参画する国際共同開発プロジェクトに係る再保険引受を引き続き積極的に進めるとともに、事業化が決定された国産航空機の輸出支援については、他国に比べ遜色のない形で貿易保険の付保による支援を実施します。

原子力分野については、安全の確保に留意して、米国等における原子力発電所建設に係る貿易保険の引受について検討します。

サービス分野など、今後海外への事業活動展開が一層進展することが期待される通商・産業政策上の重点分野でありながら、これまで貿易保険商品のご利用実績が大きくなかった産業部門や、官民連携によるインフラプロジェクトの推進などについては、政府と連携してその実態等をフォローし、より効果的な活動支援が可能となるよう商品性の改善等を検討します。

(5) 民間保険会社による参入の円滑化

民間保険会社による参入の円滑化については、第二期中期目標期間中において組合包括保険制度に付保選択制を導入する等民間参入の円滑化のための環境整備に努めてきましたが、第三期中期目標期間においても、お客様の選択肢の拡大のための商品の柔軟性向上に取り組んでまいります。

協調保険の推進

民間保険会社によるサービス提供機会の拡大を通じて、お客様に対するサービスの向上につながるよう、民間保険会社との協調保険の実施に向けた体制強化を行い、早期の実施に向け検討を進めるとともに、実施後については、お客様のニーズを踏まえ更なる商品性の向上に努めます。

民間保険会社に対する情報・ノウハウの提供・共有

パンフレットやホームページ等の各種公表資料を通じた情報公開を行うことに加えて、個々のお客様との関係で問題とならない範囲において、民間保険会社への業務委託などを通じて、貿易保険商品に関する情報・ノウハウの提供・共有が円滑に行われるよう引き続き配慮します。

2. 業務運営の効率化に関する事項

第一期・第二期中期目標期間中においては効率的な業務運営基盤を確立するべく努めてきましたが、この体制を維持・強化し、一層の業務運営効率化を推進するため、職員のコスト意識を徹底するとともに、業務処理の合理化に努めます。

また、4期システム（SPIRIT-ONE）開発の効果を最大限発揮させることにより、効率的かつ安定的な事業基盤を確立します。

（1）業務運営の効率化

費用支出にあたっては、その費用対効果を十分検討する等、コスト意識の徹底を図り、効率的な業務運営に努めます。

中期目標に従い、リスク分析・評価の高度化や広報・普及活動など、中期目標の着実な達成のために必要な体制整備を行います。他方、各業務プロセスの合理化や担当職員の実力の向上、外部委託の適切な活用に取り組み、一層の業務効率の向上を図るとともに、組織編成・人員配置が業務量の負担に対応した適切なものとなるよう常に注視し、必要に応じた見直しを行います。

また、人件費を含めたすべての費用について、当該支出の要否の検討、廉価な調達等に努め、業務費全体の効率的な利用に努めることにより、効率化を図ります。特に、既存業務の徹底した見直し、効率化を進めることとし、その業務費（人件費を含む）については、第二期中期目標期間において第一期中期目標期間の最終年度（平成16年度）の実績と比較して10%を上回る削減を達成すべく求められたところですが、第三期中期目標期間においても「独立行政法人の主要な事務及び事業の改廃に関する勧告の方向性」（平成19年12月21日、政策評価・独立行政法人評価委員会）を踏まえ、業務費については、最大限の努力を行うことにより、第二期中期目標期間において削減を達成した水準以下とします。

そのために、一般管理費については、当該中期目標期間中、平成20年度の一般管理費相当額を基準にして、毎年度1%以上の削減を行います。

（参考）平成20年度末の一般管理費

578百万円

平成 23 年度末の一般管理費見込み 560 百万円
中期目標期間中の一般管理費総額見込み 1,698 百万円

簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律(平成 18 年法律第 47 号)等を踏まえ、平成 22 年度において平成 17 年度と比較して 5%以上の人員削減を実現します。さらに、経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006(平成 18 年 7 月 7 日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成 23 年度まで継続します。

給与水準については、十分に国民の理解を得られるものとなっているかなどについて検証を行い、これを維持する合理的な理由がない場合には必要な措置を講ずることにより、給与水準の適正化に速やかに取り組むとともに、その検証結果や取組状況について公表します。

また、国からの出向者について、出向ポストを見直すとともに、適切な給与水準の下でプロパー職員を採用することなどを通じて、对国家公務員指数の適正化を図ります。

契約については、「随意契約見直し計画(平成 19 年 12 月)」に基づく取組を着実に実施し、その取組状況を公表するとともに、一般競争入札等により契約を行う場合であっても、特に企画競争や公募を行う場合には、競争性及び透明性が十分確保される方法により実施します。また、監事及び会計監査人による監査において、入札・契約の適正な実施についてチェックを受けることとします。

事務及び事業の一部について民間金融機関等への委託を行い、以て業務運営の効率化を図ります。民間損害保険会社への委託については、引き続き、委託先・委託範囲の拡大を含めて、金融機関等と連携のあり方について検討を重ね、業務委託内容の拡大を図ります。

(2) システムの効率的な開発及び円滑な運用

4 期システム(SPIRIT-ONE)のシステム保守・追加改造の効率化・迅速化を通じ、お客様に対するサービスの向上、業務運営の効率化・迅速化(組織の見直しに係る会計、税制、災害・事故等緊急時の事業継続計画等の対応に加え、新商品の開発・販売に加え、国の再保険や債権管理業務への円滑な対応を含む)を実現します。

4 期システムの保守・改造においては、保守費用が 3 期システムの保守費用を下回るように努めます。

3. 財務内容の改善に関する事項（予算、収支計画及び資金計画）

（1）財務基盤の充実

お客様に対して「確実な安心」を継続的かつ安定的に提供していくため、健全な財務内容を維持します。具体的には、業務運営の効率化や、的確なリスク・マネジメントを通じた支出の抑制に努めると共に、保険事故債権の適切な管理および回収の強化を図り、安定的な収入の確保に取り組みます。

（ア） 予算計画（別添1参照）

（イ） 収支計画（別添2参照）

（ウ） 資金計画（別添3参照）

（2）債権管理・回収の強化

債権データの管理を的確に行うとともに、国の関係機関との緊密な連携や、職員の専門能力の涵養、民間回収専門業者の活用等を行うことにより、回収能力を強化します。非常リスクに係る保険事故債権については、パリクラブや債務国との間で締結する債務繰延協定への対応を含め、政府が行う保険事故に係る債務履行確保等に関する諸外国との交渉に対して、積極的かつ的確な対応を行います。

信用リスクに係る保険事故債権については、お客様の協力を得つつ、積極的な回収に取り組めます（その際の目安として、中期目標期間終了時において期間平均の回収実績率20%を達成するように努めます。）

（註）回収実績率の目安については、回収の対象となる保険事故債権の内容、債務者の財務状況、債務者の居住国における倒産法制等の外的要因に左右されること、回収努力（返済計画の確定等）から実際の成果が上がるまで一定のタイムラグが生じる場合が多いこと等の諸要素に鑑み、期間平均の実績を達成目標として回収の強化に努めます。

商品開発・営業・審査部門の業務の適正化・効率化に資するためにも、具体的案件の査定・回収業務を通じて蓄積したノウハウをフィードバックし、リスク管理の強化に努めます。また、お客様や国の関係機関と協力して必要な対応を機動的に講じ、事故発生の防止、損失の軽減に努めます。

保険事故債権については、その管理を的確に行うことはもとより、評価・分析手法の改良に努め、適切な経理処理を行います。

4. 高い専門性を持った人材の育成（人事に関する計画）

（１）方針

引き続き、民間企業等から高度な専門性を有する職員を採用するとともに、職員に対する研修制度を充実させること、職員の専門性の育成に配慮した人事制度を効率的に運用すること等により、職員の専門性をより高度なものとしします。

また、現行の業務処理の改善（例えば、定型業務の処理体制の一元化や管理部門の業務の効率化等）を図ることにより、業務の量・質に対応した、より適正な人員の配慮を行ないます。さらに、目標管理制度に基づく業績評価や業務実態に即した人事考課制度の整備等を通じて、職員が引き続き日本貿易保険においてその専門性を活かしていくことに対してインセンティブを与えるような、魅力ある就業環境の形成に努めます。

（２）人員に係る指標

平成23年度末の人員を平成20年度末の97%以内とする。

（参考1）平成20年度末の人員数 152人

平成23年度末の人員数見込み 147人

（参考2）中期目標の期間中の人件費総額見込み 4,119百万円

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、休職者手当及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

（３）人材の確保及び養成に関する計画

人材の確保

常勤職員の一部に、国際金融、国際プラントビジネス、保険業務、財務等の分野において高度な専門性を有する民間企業等の人材を採用します。また、目標管理制度に基づく業績評価や、業務実態に即した人事考課制度の整備等を通じて魅力ある就業環境を形成し、専門性の高い職員の定着に対するインセンティブの付与に努めます。

人材の養成

個々の職員の専門性の育成に配慮した人事制度を構築するとともに、職員に対する研修制度の充実等により、民間企業等から採用した人材の専門的な知見を速やかに共有させ、専門性の高い人材の早期育成を図ります。

5. 短期借入金の限度額

平成21年度(2009年度) 500億円

平成22年度(2010年度) 500億円

平成23年度(2011年度) 500億円

6. その他

本計画については、貿易保険はその運営が国際政治経済情勢の変化に的確に対応したものである必要があることから、今後、大きな情勢の変化がある場合には、機動的な対応が可能となるよう適時適切に見直しを行います。

【別添1】

予算計画

(2009年4月1から2012年3月31日まで)

- ・ 昨今の国際金融情勢は、世界的な金融機関の金融収縮、株価の下落などを背景とした深刻な危機に直面している。
- ・ このような状況下において、公的輸出信用機関である日本貿易保険（NEXI）は、国際金融変動のセーフティネットとして、お客様の貿易投資活動に関する資金供給が円滑に行われるよう、未曾有かつ不測のリスクに積極的に対応することとしている。
- ・ 今般、一定の仮定の下、第三期中期目標期間（09-11年度）における収支予想を設定した。本収支予測は、現下の国際金融情勢とNEXIが講じた金融危機対策の対応結果が反映されるものとして巨額の保険金支払を想定しているが、なお、景気の先行きは不明瞭であり、今後3年間の収支状況は予断を許さない。

(単位・百万円)

	区別	合計
収 入	業務収入	42,336
	正味収入保険料	30,384
	正味回収金	3,510
	受取利息	8,442
	その他業務収入	0
	被出資財産からの回収金	29,231
	有価証券の償還	82,500
	短期借入金	0
	(収入計)	154,067
	支 出	業務支出
正味支払保険金		39,000
人件費		4,119
国庫納付金		0
その他業務支出		11,847
投資支出		4,810
システム開発等		4,600
その他投資支出		210
有価証券の取得		82,500
短期借入金返済		-
その他の支出		6
予算差異	11,785	
(支出計)	154,067	

【別添2】

収支計画

(2009年4月1から2012年3月31日まで)

- ・ 昨今の国際金融情勢は、世界的な金融機関の金融収縮、株価の下落などを背景とした深刻な危機に直面している。
- ・ このような状況下において、公的輸出信用機関である日本貿易保険（NEXI）は、国際金融変動のセーフティネットとして、お客様の貿易投資活動に関する資金供給が円滑に行われるよう、未曾有かつ不測のリスクに積極的に対応することとしている。
- ・ 今般、一定の仮定の下、第三期中期目標期間（09-11年度）における収支予想を設定した。本収支予測は、現下の国際金融情勢とNEXIが講じた金融危機対策の対応結果が反映されるものとして巨額の保険金支払を想定しているが、なお、景気の先行きは不明瞭であり、今後3年間の収支状況は予断を許さない。

(単位:百万円)

区別	合計
費用の部	
経常費用	63,877
正味支払保険金	39,000
業務費	20,729
その他経常費用	4,148
臨時損失	3,600
計	67,477
収益の部	
経常収益	33,925
正味収入保険料	30,384
正味回収金	3,510
その他経常収益	31
財務利益	8,442
臨時利益	8,369
計	50,736
純利益	-16,741

【別添3】

資金計画

(2009年4月1日から2012年3月31日まで)

- ・ 昨今の国際金融情勢は、世界的な金融機関の金融収縮、株価の下落などを背景とした深刻な危機に直面している。
- ・ このような状況下において、公的輸出信用機関である日本貿易保険(NEXI)は、国際金融変動のセーフティネットとして、お客様の貿易投資活動に関する資金供給が円滑に行われるよう、未曾有かつ不測のリスクに積極的に対応することとしている。
- ・ 今般、一定の仮定の下、第三期中期目標期間(09-11年度)における収支予想を設定した。本収支予測は、現下の国際金融情勢とNEXIが講じた金融危機対策の対応結果が反映されるものとして巨額の保険金支払を想定しているが、なお、景気の先行きは不明瞭であり、今後3年間の収支状況は予断を許さない。

(単位:百万円)

区別	合計
資金支出	
業務活動による支出	54,966
正味支払保険金	39,000
業務費支出	15,966
国庫納付金	0
投資活動による支出	87,310
財務活動による支出	6
翌年度への繰越金	135,946
計	278,228
資金収入	
業務活動による収入	34,194
正味収入保険料	30,384
正味回収金	3,510
受取利息	300
その他業務収入	-
被出資財産からの回収金	29,231
投資活動による収入	82,500
財務活動による収入	8,142
前年度繰越金	124,161
計	278,228

(4) 年度計画

独立行政法人日本貿易保険年度計画 (2009年度〔平成21年度〕)

09 - 一般 - 00147
2009年3月31日

1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 商品性の改善

NEXIとしては、お客様のニーズ変化に的確に対応した質の高いサービスを提供するという設立の趣旨を改めて認識し、また、昨今の自己資本の充実による財務状況の安定化も踏まえ、平成21年度においても、商品性の改善に積極的に取り組んでまいります。

毎年度実施するお客様アンケートや各国貿易保険機関との定期協議を通じ、お客様のご要望、金融取引・対外取引形態の変化や各国貿易保険機関が提供する商品等を踏まえて、商品見直しの必要性を検討してまいります。

また、与信条件の見直しや、付保対象となる契約形態の範囲拡大、商品の簡素化など、現行商品の使い勝手を向上させるほか、必要に応じて新商品の開発を行い、引受リスクの質的拡大を図ります。具体的には、次のような取り組みを行います。

ア) 本邦法人が行うストックセールスについては、これを付保の対象とするように現行制度の見直しを行います。

イ) 2年未満包括保険商品については、原則として1つの輸出契約について1つの保険契約を申し込むこととしている現行制度の見直しを含め、お客様の継続反復する汎用品の輸出に係る保険申込等の手続きを簡素化した包括保険の創設に向け、規定類の作成等の検討を引き続き行います。

ウ) 海外支店が締結する契約は、これまで付保の対象ではありませんでしたが、これを付保の対象とするように現行制度の見直しを行います。

国際的な金融危機への対応については、国際金融変動のセーフティネットとして、政府及び関係機関と連携し、お客様のビジネスニーズに対し円滑な資金供給が行われるよう、金融環境の変化に応じ迅速に対応するとともに、積極的に制度及び運用の改善を図ります。

(2) サービスの向上

お客様の負担軽減

平成21年度制度改正に対応したWEB試算機能の充実を行うなど、お客様の保険申込等に係る負担の軽減に引き続き取り組みます。また、お客様からの要望の把握に努め、お客様にとって使い勝手のよいシステムとなるよう改善を行います。海外輸出信用機関との再保険ネットワークの拡充については、お客様のニーズを踏まえ、引き続き海外輸出信用機関との再保険協定の締結及び案件の引受を進め、手続きのワンストップ化を推進します。

平成21年1月より保険事故前輸出代金債権の流動化の促進に積極的に対応することとして、債権流動化スキームを一般化しましたが、今後はお客様からのご要望等を踏まえて、さらに活用しやすいスキームの開発、制度運営を図ってまいります。

パリクラブてん補割れ債権譲渡承認制度及びパリクラブてん補割れ債権の日本貿易保険への譲渡承認制度については、お客様のニーズを踏まえ、より良いサービスとなるように、引き続き制度改正・運用に努めます。

意思決定・業務処理の迅速化

保険業務運営に係る知見を集約したナレッジシステム(NEXIライブラリー)については、既搭載情報の確実な更新・メンテナンスを行い、その内容について組織内での共有を徹底します。具体的には、新任者を中心としたタイムリーな研修の充実及びライブラリーニュースの定期発行による周知・意識高揚を図ります。

平成21年度においても、意思決定・業務処理の迅速化に係る数値目標を厳守し、お客様との信頼関係の確立に努めるとともに、お客様憲章の履行状況とその見直しについてフォローアップを行います。

- ・ 信用リスクに係る保険金の査定期間を全件60日(調査期間含む)以内とするとともに、同平均査定期間を50日(調査期間除く)以下とします。また、これまでの査定実績を踏まえ、実態にあった査定期間のあり方の検討を開始します。
- ・ 保険料の算出を迅速化するために必要な簡素化を行った上で、試算に関する問い合わせには、必要な情報を提供された翌営業日まで(中長期Non-L/G信用案件については5営業日以内)に回答します。
- ・ 提出された保険契約申込書等に不備がある場合、5営業日以内に連絡します。
- ・ 提出された保険金請求書及び添付書類に不備がある場合、3営業日以内に連絡します。
- ・ 具体的な案件に係るお客様からの制度面の照会には5営業日以内に回答します。
- ・ 政府が締結する債務繰延協定等に基づく保険事故債権に係る回収金の配分は、日本貿易保険の口座に全額入金を確認された日の翌営業日までに送金処理の手続きを的確に行います。
- ・ 「資源エネルギー総合保険」については、案件の相談受付後30日以内に、当該案件に関する引受方針、条件等の検討状況をお客様にお知らせすることとします。

業務運営の透明化とコンプライアンスの徹底

ホームページや各種広報媒体を通じた情報公開を積極的に行い、事業の公正かつ透明な実施を確保します。海外メディアに向けての情報発信も積極的に行い、NEXIプレゼンスの向上に努めます。統計資料については、平成20年度に設置した統計委員会の下で、統計資料の充実を図ります。

また、内部の業務管理体制を強化するとともに、法令遵守(コンプライアンス)のため、コンプライアンス・マニュアルを作成し、役職員に対し研修を行います。機密情報・個人情報保護を含めた情報管理の徹底に努めます。

これに加え、常に社会責任を自覚し、外部環境に配慮した組織運営を行います。

上記のほか、お客様憲章の徹底、お客様の意見聴取・ニーズの把握を常に行い、お客様との信頼関係を確立するとともに、お客様にとってより利便性が高く多様なサービスを提供できる体制を整えます。

(3) お客様のニーズの把握・反映やリスク分析・評価の高度化のための体制整備

広報・普及活動とニーズの把握・反映のための体制整備

現在の保険商品に関する広報・普及体制を充実させ、潜在的なお客様の発掘を積極的に展開します。

平成21年度には、新聞、雑誌、電子情報などにNEXIが引受けた案件や制度改善に関する記事が掲載されるよう積極的に働きかけるとともに、ホームページの刷新、掲載広告やパンフレット等の一層の拡充に努めます。

貿易保険を利用されたことのないお客様に対して、個別訪問や金融機関が開催するセミナー及びNEXIが主催する貿易保険セミナーにおいて保険商品の説明・紹介を積極的に行うことにより、潜在的なお客さまの掘り起こしに努めます。また、従来から貿易保険をご利用いただいているお客様に対しても、定期調査をはじめとして、各種会合や個別訪問等の場において要望等を聴取し、お客さまのニーズの把握に努めます。加えて、未曾有のスピードで変化する金融危機、世界同時不況等の状況に迅速に対応するため、わが国企業の貿易・投資にかかるニーズや背景の国際経済状況等の把握に努め、前例に捕らわれることなく必要な措置を講じていきます。また、そのために必要となる体制の整備を機動的に行います。さらに、各種保険商品の金融機関等への販売業務委託を行うことにより、貿易保険制度の効率的な普及活動を行います。

リスク分析・評価の高度化のための体制整備

国際的な金融危機と景気後退による、デフォルト率の増加見通し等を勘案し、外部環境の変化に対応する機動的なバイヤー審査を行い、格付モデルの更なる検証と必要に応じた審査手法の見直しにより、与信管理体制の強化に努めます。

また、国際的な金融危機による各国への影響を見極めつつ、国別与信モニタリングなどを通じ、カントリーリスク情勢の変化を踏まえた国カテゴリー及び引受方針の設定となるよう引き続き取り組んで参ります。

なお、バイヤー、国などリスク分析に係る審査体制について、一層、内外の各種機関との連携を図りつつ、情報収集面での取組強化に努めて参ります。

大型の保険金支払が生じた場合については、商品開発・営業・審査部門の業務の適正化・効率化に資するためにも、その事故原因について、査定回収を含めた各担当者が共同で十分な検討を行います。これを踏まえて、審査・リスク管理、査定回収および保険引受条件等のあり方について見直しを実施するほか、必要に応じた態勢整備を実施します。

既保険契約締結案件に係るフォローアップを行う専門部署を設置し、リスク管理の強化に努めます。

専門能力の向上

専門的な業務遂行能力を高めるため、職員の要望を確認しつつ、引き続き、財務分析、国際金融等の研修を実施し、職員の高度な専門性と実践能力獲得に努めるとともに、職務・職責に応じた専門的な業務遂行能力に対して適切に評価する人事制度を実施して参りますが、制度の内容については、適時適切な見直しを含め検討を行って参ります。

その他、審査・情報収集能力や回収能力等を強化するため、引き続き、JETROや在外大使館等との関係諸機関との間で連絡を密にし、有機的な連携体制を整え、本邦企業による対外取引をより多面的かつ効果的にバックアップします。

内部統制の整備

専門性の高い人材の確保により情報収集能力や分析能力の向上を図るとともに、プロセス管理に重点を置きつつ、業務の効率性・有効性や法令遵守等の担保も含めた内部管理体制の充実を図るために優先的に取り組むべき重要リスクを選定し、リスク毎に体制の整備を図ります。

情報開示による透明性の確保

企業会計原則を踏まえた財務諸表の公表・経営実態を適切に反映した事業報告書の公開を通じ、お客様を含めた国民の皆様への適切な情報開示に努めます。また、透明性を確保する観点から、こうした情報を一層わかりやすく開示し貿易保険の政策的意義や長期間にわたる収支相償等の特性について十分に説明し、NEXIの業務運営について国民の皆様の理解を得られるよう努めてまいります。

(4) 重点的政策分野への戦略化・重点化

我が国対外取引の発展を担う公的機関としての役割に鑑み、国の通商政策、産業政策、資源エネルギー政策等における要請を十分に踏まえ、中期目標に示されている政策課題の達成に率先してとりくみ、その達成に向けて当該分野の引受リスクの質的および量的な拡大を図ります。

このため、以下政策課題について、政策上の具体的要請を把握した上で、当該分野の引受リスク拡大に向けた商品・制度の普及に努め、政策の実現に貢献します。国別引受方針の見直しについては、国毎のリスクを踏まえつつ、国の政策と一致させるよう努めます。

金融危機への機動的な対応

国際的な金融変動のセーフティーネットとして、政府及び関係機関と連携し、金融危機への機動的な対応に取り組みます。具体的には、以下のような取り組みを行います。

ア) 平成21年1月より実施している海外日系企業の運転資金支援について迅速な引受処理と制度の拡充、改善を行います。

イ) 途上国におけるバイヤーの貿易決済用の資金調達を円滑化するため、途上国の金融機関に対するバンクローンを活用した貿易保険のバイヤーズクレジットについて、積極的に進めていきます。

ウ) 本邦企業による海外資産等の買収支援や投資環境整備の観点からアジア等のインフラ整備に取り組みます。

エ) アジア各国の貿易保険機関との再保険協定の締結の拡大や、アジアの貿易保険機関職員のための研修を開催するなどの人材育成を通じ、各国貿易保険機関との協調を進めるとともに、国際的対応について積極的イニシアティブをとります。

オ) 平成21年1月より保険事故前輸出代金債権の流動化の促進に積極的に対応することとして、債権流動化スキームを一般化しましたが、今後はお客様からのご要望等を踏まえて、さらに活用しやすいスキームの開発、制度運営を図ってまいります。

資源・エネルギーの安定供給確保支援

我が国企業による鉱物資源、エネルギー資源の引取・権益取得を強力に支援するため、資源エネルギー総合保険等を積極的に活用し、民間企業の活動をサポートします。

また、国営資源会社、大手資源関係企業等と締結してきた相互協力協定を活用し、具体的な案件の組成に努めます。

環境社会構築への支援

2009年から引受を開始した地球環境保険を活用し、省エネ・環境改善に資する案件について、適切なリスク審査を行いつつ引受を進めるとともに、地球温暖化対策の重要性に鑑み、世界的なCO₂排出量の削減に貢献するための保険商品について更に検討をすすめます。

また、公的輸出信用機関としての社会的責任を果たすため、2009年度に改正される環境社会配慮ガイドラインによる審査を的確に行うとともに、効率的かつ適切な審査を担保する態勢を整備します。

中堅・中小企業の国際展開支援

中堅・中小企業のお客様の海外市場への挑戦を積極的に支援するため、お客様のニーズに対応したサービスを提供し、積極的なサポートを行います。その一環として本年9月末までバイヤー調査費用の無料化を実施しておりますが、お客様のニーズを踏まえて、サービスのあり方の見直しを図ります。

また、これまで貿易保険の利用経験のない中堅・中小企業の新規法人向け商品である中小企業輸出代金保険について、販売チャネル多様化の観点から、関係諸機関との連携をはかりつつ、お客様向け説明会の開催や個別説明等による貿易保険の普及・PRに努めます。

航空機、原子力、サービス分野その他の分野への支援

航空機分野については、我が国企業が参画する国際共同開発プロジェクトに係る再保険引受を引き続き積極的に進めるとともに、事業化が決定された国産航空機の輸出支援については、他国に比べ遜色のない形で貿易保険の付保による支援を実施します。

原子力分野については、安全の確保に留意して、米国等における原子力発電所建設に係る貿易保険の引受について検討します。

サービス分野など、今後海外への事業活動展開が一層進展することが期待される通商・産業政策上の重点分野でありながら、これまで貿易保険商品のご利用実績が大きくなかった産業部門や、官民連携によるインフラプロジェクトの推進などについては、政府と連携してその実態等をフォローし、より効果的な活動支援が可能となるよう商品性の改善等を検討します。

(5) 民間保険会社による参入の円滑化

協調保険の推進

民間保険会社によるサービス提供機会の拡大を通じて、お客様に対するサービスの向上につながるよう、民間保険会社と協議し、具体的案件の早期実現を図ります。

民間保険会社に対する情報・ノウハウの提供・共有

平成21年度も引き続き各保険商品の民間保険会社等への販売業務委託を通じ、貿易保険商品に関する情報・ノウハウの提供・共有が円滑に行われるよう配慮します。

2. 業務運営の効率化に関する事項

(1) 業務運営の効率化

中期目標に従い、リスク分析・評価の高度化や広報・普及活動など、中期目標の着実な達成のために必要な体制整備を行います。他方、各業務プロセスの合理化や担当職員の能力の向上、外部委託の適切な活用に取り組み、一層の業務効率の向上を図るとともに、組織編成・人員配置が業務量の負担に対応した適切なものとなるよう常に注視し、必要に応じた見直しを行います。

また、人件費を含めたすべての費用について、当該支出の要否の検討、廉価な調達等に努め、業務費全体の効率的な利用に努めることにより、効率化を図ります。特に、既存業務の徹底した見直し、効率化を進めることとし、その業務費(人件費を含む)については、第二期中期目標期間において第一期中期目標期間の最終年度(平成16年度)の実績と比較して10%を上回る削減を達成すべく求められたところですが、第三期中期目標期間においても「独立行政法人の主要な事務及び事業の改廃に関する勧告の方向性」(平成19年12月21日、政策評価・独立行政法人評価委員会)を踏まえ、業務費については、最大限の努力を行うことにより、第二期中期目標期間において削減を達成した水準以下とします。

そのため、一般管理費については、当該中期目標期間中、平成20年度の一般管理費相当額を基準にして、毎年度1%以上の削減を行います。

簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律(平成18年法律第47号)等を踏まえ、平成22年度において平成17年度と比較して5%以上の人員削減を実現するために、引き続き所要の措置を講じて参ります。さらに、経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を継続します。

給与水準については、十分に国民の理解を得られるものとなっているかなどについて検証を行い、これを維持する合理的な理由がない場合には必要な措置を講ずることにより、給与水準の適正化に速やかに取り組むとともに、その検証結果や取組状況について公表します。

また、国からの出向者について、出向ポストを見直すとともに、適切な給与水準の下でプロパー職員を採用することなどを通じて、対国家公務員指数の適正化を図ります。

契約については、「随意契約見直し計画(平成19年12月)」に基づく取組を着実に実施し、その取組状況を公表するとともに、一般競争入札等により契約を行う場合、特に企画競争や公募を行う場合であっても、契約手続マニュアルを活用しつつ、競争性及び透明性が十分確保される方法により実施します。また、監事及び会計監査人による監査において、

入札・契約の適正な実施についてチェックを受けることとします。

平成21年度も各保険商品の民間金融機関への販売業務委託を引き続き実施いたします。これにより、新規顧客開拓の面において業務の効率化を図ります。

(2) システムの効率的な開発及び円滑な運用

第4期システムの保守・追加改造・運用については、具体的には次のような取組を実施します。

ア) 平成21年度制度改正に対応するためのシステム改造を行った上で、円滑な運用の実現に努めます。

イ) 組織の見直し、内部統制に係るシステム対応の準備を進めます。

ウ) ITインフラについて、所要の更新を進めるとともに、併せて、事業継続等に必要強化を行います。

エ) システムの保守については、円滑なシステムの運用に努めつつ、保守費用の抑制に努めます。

3. 財務内容の改善に関する事項(予算、収支計画及び資金計画)

(1) 財務基盤の充実

お客様に対して「確実な安心」を継続的かつ安定的に提供していくため、健全な財務内容を維持します。

具体的には、業務運営の効率化や、的確なリスク・マネジメントを通じた支出の抑制に努めるとともに、保険事故債権の適切な管理および回収の強化を図り、安定的な収入の確保に取り組みます。

予算計画(別添1参照)

収支計画(別添2参照)

資金計画(別添3参照)

(2) 債権管理・回収の強化

債権管理・回収の強化回収能力の強化、事故発生の防止・損害軽減に向け、下記の措置を講じます。

民間回収専門事業者の活用については、平成19年度に新たに基本業務提携契約を締結した4社を加えた回収事業者12社を、過去の実績を踏まえ活用して参ります。また、平成20年度に引き続き、お客様を対象に「債権回収セミナー」開催を企画、検討します。

非常リスクに係る保険事故債権については、引き続き、パリクラブや債務国との間で締

結する債務繰延協定への対応を含め、政府が行う保険事故に係る債務履行確保等に関する諸外国政府との交渉に積極的に関与し、的確な対応を行います。

信用リスクに係る保険事故債権については、引き続き、お客様の協力を得つつ、積極的に回収に取り組みます。

商品開発・営業・審査部門の業務の適正化・効率化に資するためにも、具体的案件の査定・回収業務を通じて蓄積したノウハウをフィードバックし、リスク管理の強化に努めます。具体的には、既保険契約締結案件に係るフォローアップを行う専門部署を設置します。また、お客様や国の関係機関と協力して必要な対応を機動的に講じ、事故発生の防止、損失の軽減に努めます。

今後は、債権管理データシステムの拡充を図り、統計分析手法を活用した査定回収戦略を構築し、債権回収の一層の効率化、迅速化のための方策を検討します。

4. 高い専門性を持った人材の育成（人事に関する計画）

（1）人材の確保

平成18年度の行政改革の重要方針を踏まえた人員削減を考慮しながら、引き続き、国際金融及び保険業務等の分野において高度な専門性を有する民間企業等の人材を採用します。また、現行の業務態勢の改善を図ることにより、業務の量・質に応じた適正な人員の配置を行います。さらに、全職員を対象に目標管理制度に基づく業績評価を実施するとともに、職務・職責に応じた専門性の高い職員に対して、専門能力認定制度に基づく専門能力の認定を行って参りますが、認定制度の内容については、専門性の高い職員の定着に対するインセンティブの付与等に努めるため、適時適切な見直しを含め検討を行って参ります。

（2）人材の養成

職員個々の専門性を高めるため、職員の要望を確認する等して研修制度を引続き充実させていくとともに、民間企業等から採用した人材が所持する専門的な知見を速やかに共有させ、専門性の高い人材の早期育成を図る等、職員の専門性の育成に配慮した人事制度を実施して参ります。

(別添1)

予算計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
収入	
業務収入	14,022
正味収入保険料	10,128
正味回収金	1,080
受取利息	2,814
その他業務収入	-
被出資債権からの回収金	7,916
有価証券の償還	60,000
短期借入金	-
計	81,938
支出	
業務支出	17,343
正味支払保険金	12,000
人件費	1,386
国庫納付金	0
その他業務支出	3,957
投資支出	1,770
システム開発等	1,700
その他投資支出	70
有価証券の取得	60,000
短期借入金返済	-
その他の支出	2
予算差異	2,823
計	81,938

(別添2)

収支計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
費用の部	
經常費用	20,480
正味支払保険金	12,000
業務費	7,130
その他經常費用	1,350
臨時損失	1,200
計	21,680
収益の部	
經常収益	11,221
正味収入保険料	10,128
正味回収金	1,080
その他經常収益	13
財務利益	2,814
臨時利益	1,819
計	15,854
純利益	5,826

(別添3)

資金計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
資金支出	
業務活動による支出	17,343
正味支払保険金	12,000
業務費	5,343
国庫納付金	0
投資活動による支出	61,770
財務活動による支出	2
翌年度への繰越金	42,306
計	121,421
資金収入	
業務活動による収入	11,308
正味収入保険料	10,128
正味回収金	1,080
受取利息	100
その他業務収入	-
被出資財産からの回収金	7,916
投資活動による収入	60,000
財務活動による収入	2,714
前年度繰越金	39,483
計	121,421